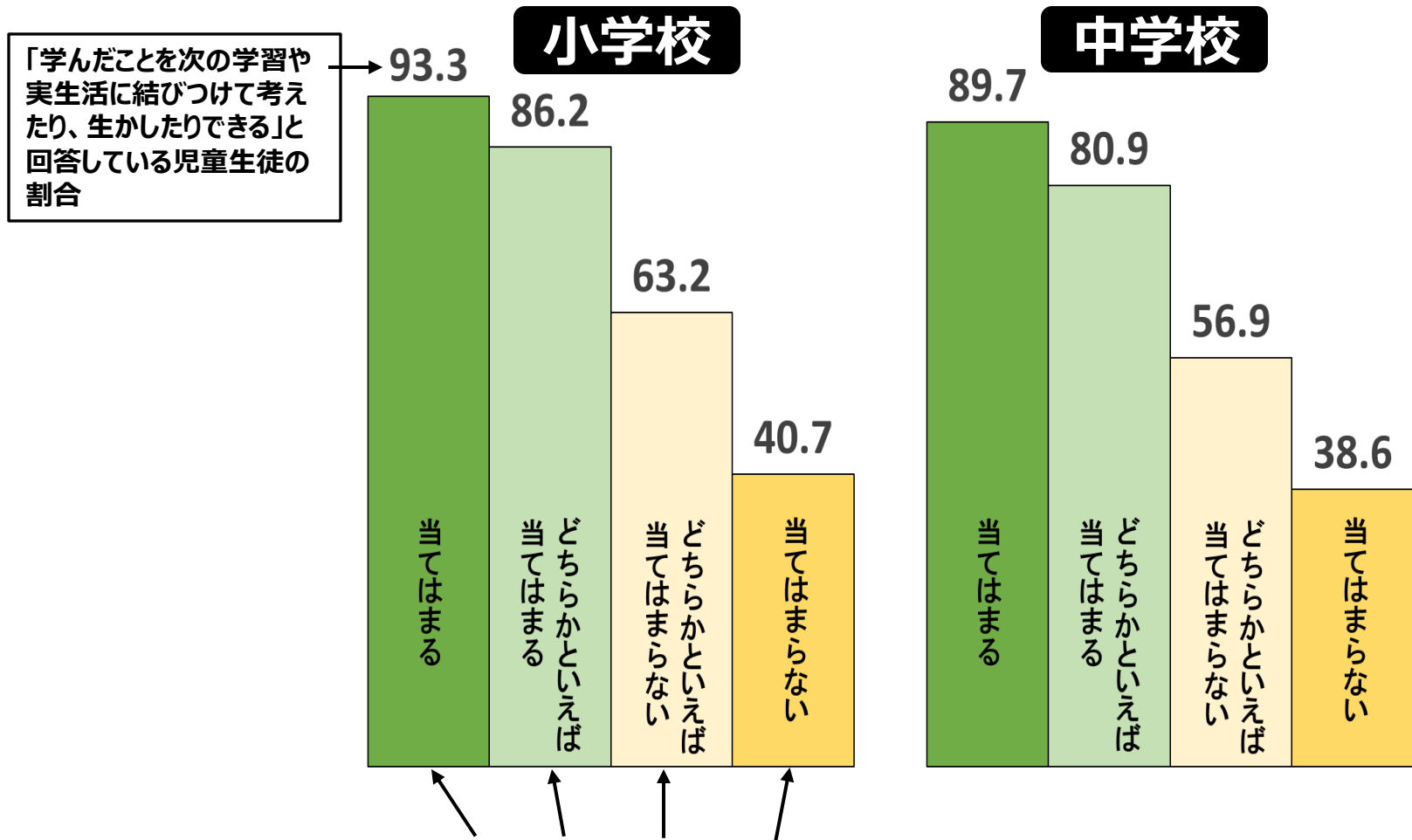


「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、授業で学んだことを「次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできる」割合が高い傾向



総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

(出典) 令和6年度全国学力・学習状況調査

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、
「自分の考えをまとめる活動を行っていた」割合が高い傾向

全般的な傾向
(自分の考えを書くことが苦手)

全国学力・学習状況調査では、自分の考えをまとめたり書いたりする問題の正答率に課題が見られる。

小学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 でどのように話すかを書く（R4）	互いの立場や意図を明確にしなが 画的に話し合い、 自分の考え をまとめる	47.8%	3.0%
【川村さんの文章】の空欄に学校の米 作りの問題点と解決方法を書く（R5）	図表やグラフなどを用いて、 自分の考え が伝わるように書き表し方を工夫するこ とができるかどうかをみる	26.8%	7.0%
資料を読み、運動と食事の両方につい て分かったことをもとに、自分ができそ うなことをまとめて書く（R5）	文章を読んで理解したことに基づいて、 自分の考え をまとめることができるかど うかをみる	56.4%	8.4%

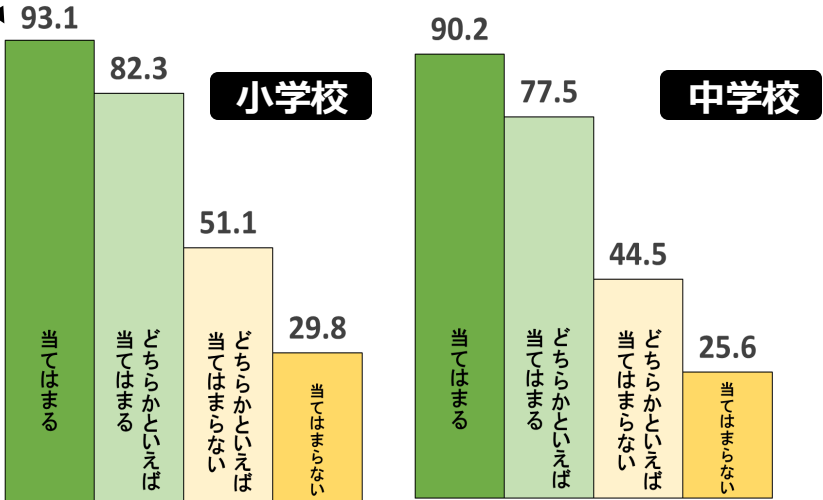
中学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
参加者の誰がどのようなことについて発 言するとよいかと、そのように 考えた理 由 を書く（R3）	話し合いの話題や方向を捉えて、 話す内 容を考える	57.5%	3.3%
農林水産省のウェブページにある資料 の一部から必要な情報を引用し、意 見文の下書きにスマート農業の効果 を書き加える（R4）	自分の考え が伝わる文章になるように、 根拠を明確にして書く	46.5%	8.8%

出典：R3～R5 全国学力・学習状況調査 8

総合で探究的に学んでいる子
(自分の考えをまとめる活動を行っていた子が多い)

「各教科などで学んだことを生
かしながら、自分の考えをまと
める活動を行っていた」と回答
している児童生徒の割合



総合で探究的に学んでいる

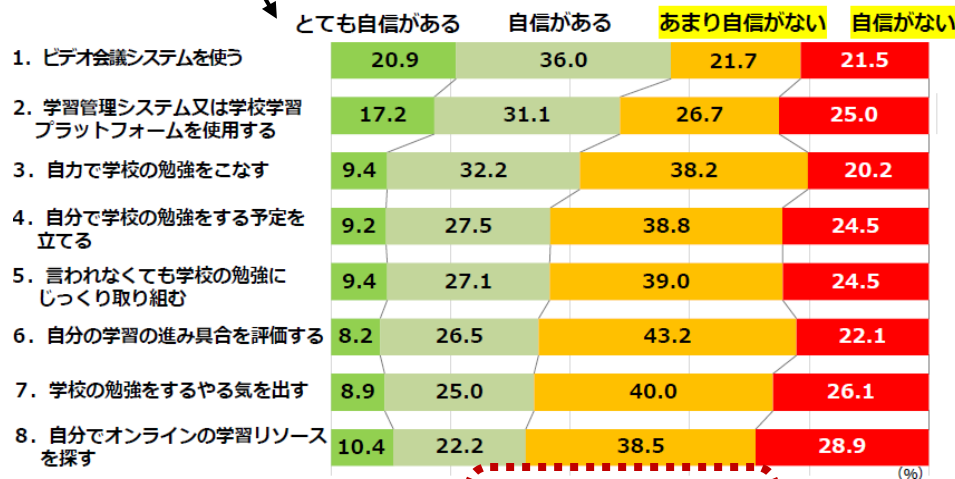
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、
調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、 「自分で学び方を考え、工夫できる」割合が高い傾向

全般的な傾向 (自律的に学ぶ自信がない)

学校が再び休校になった場合に
自律学習を行う自信があるか

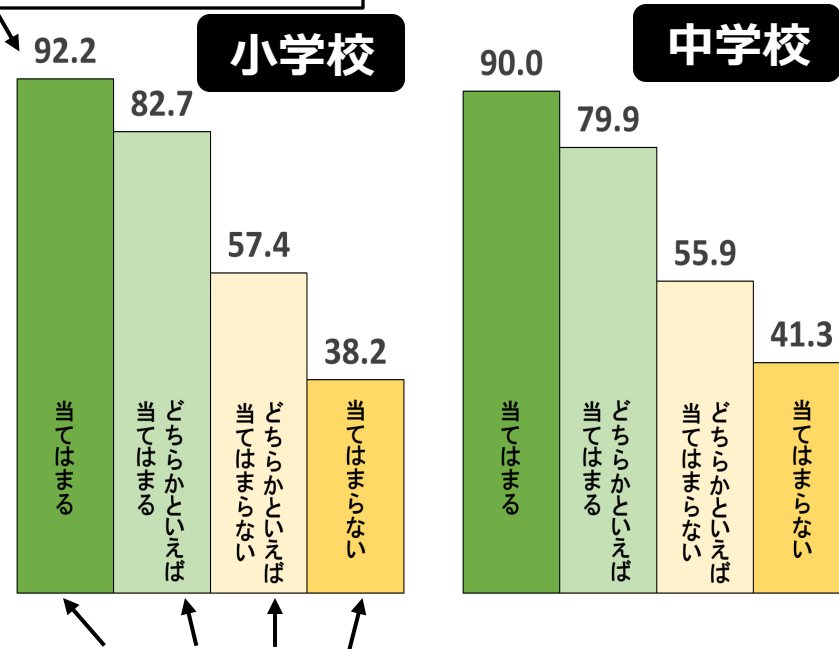


上記 8 項目を指標化して比較
※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感(自信)が高い。

OECD平均	0.01
日本(34/37位)	-0.68

総合で探究的に学んでいる子 (自分で学び方を考え、工夫できる子が多い)

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答している児童生徒の割合



総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

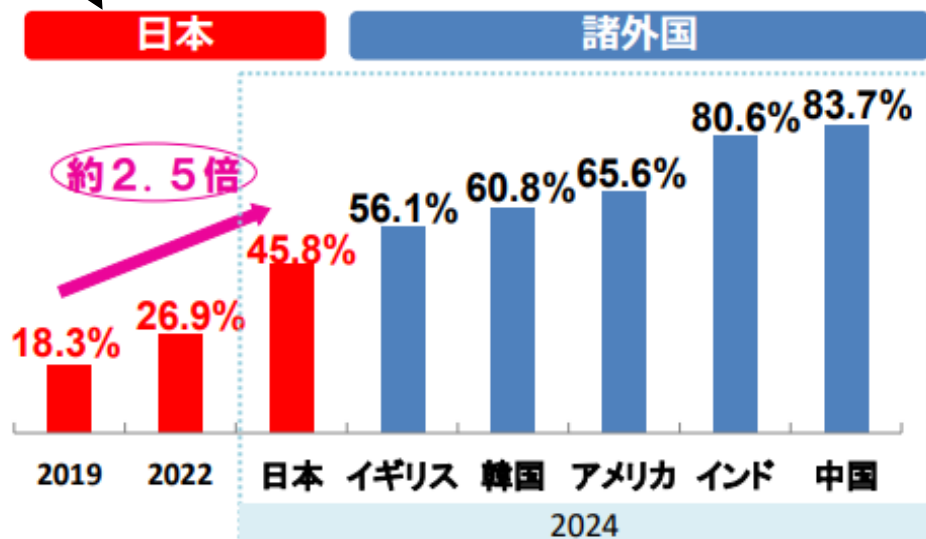
※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度評価 PISA2022のポイント」をもとに作成

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、 「地域を良くするために何かしてみたいと思う」割合が高い傾向

全般的な傾向 (社会参画意識は改善傾向だが依然課題)

「自分の行動で国や社会を変えられと思う」(※1)と回答している児童生徒の割合

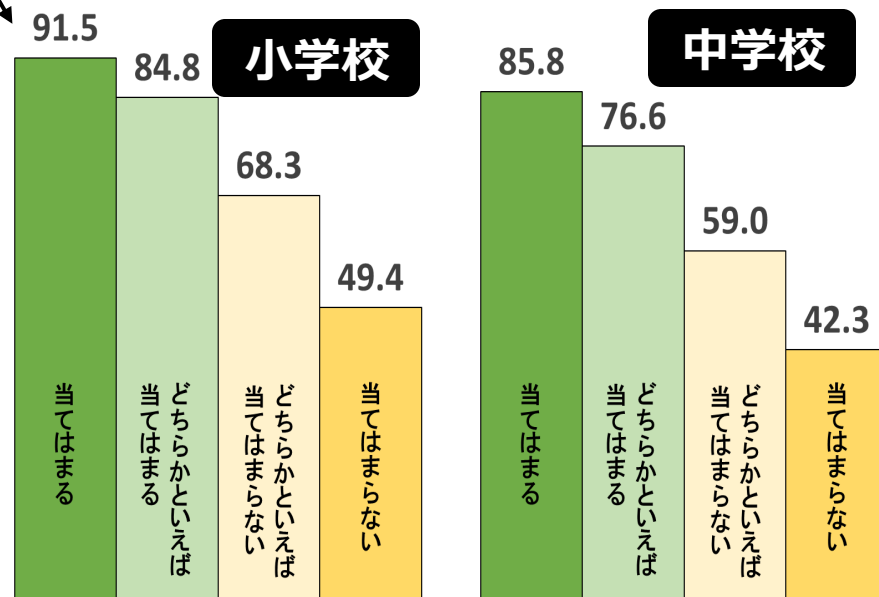


(※1)「同意」、「どちらかといえば同意」の回答率

(出典) 日本財団18歳意識調査結果 第62回テーマ「国や社会に対する意識(6カ国調査)」、令和6年度全国学力・学習状況調査より作成

総合で探究的に学んでいる子 (地域のために何かしたい子が多い)

「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」と回答している児童生徒の割合



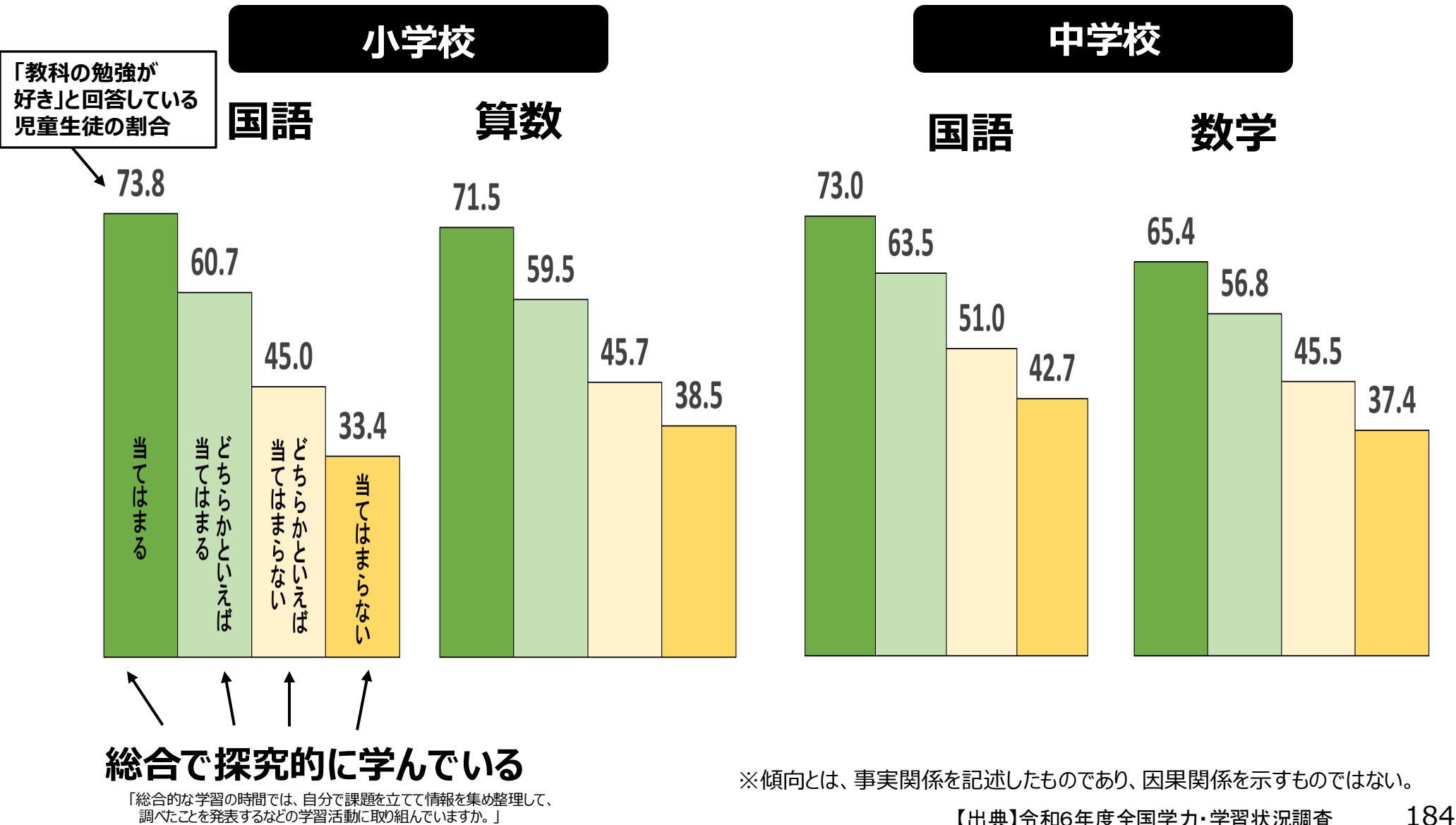
総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

(出典) 令和6年度全国学力・学習状況調査

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は
「教科の勉強が好き」な割合が高い傾向



子供への意見聴取結果（関連部分の抜粋）

テーマ：みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか？



○ ワクワクした授業やその理由は何ですか？

- ・ 小学4年生の総合の授業で、車いすの使い方を勉強した。おもしろくてためになると思った。
- ・ **総合の授業が好き**。みんなで何かをしたり、自分でがんばって資料を集めて作ったりするのが好きだから。
- ・ **総合の調べ学習**や美術の何かを作る授業、行事の班決めや調べ学習など、**自分で決めて、調べて、まとめる作業が好き**なのでワクワクする。
- ・ 総合的な学習の中の探究学習の時間。**自分の調べたいものを内発的動機に基づいて調べることができる。大人とも力を合わせて自分が作りたいものを作り上げられる。完成したときはすっきり気持ちがいい。**

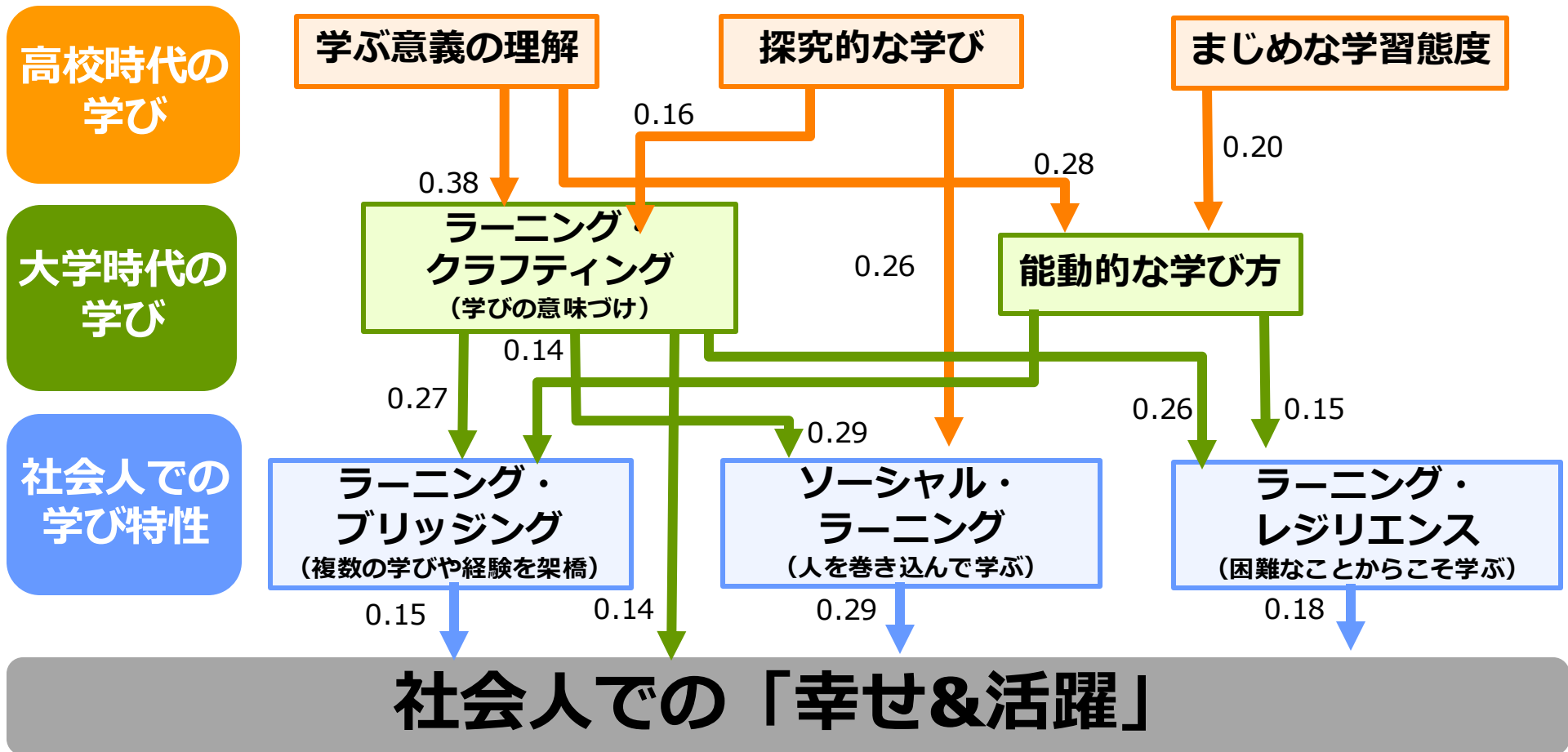
○ 自分の力をつけていくために、どんな授業がよいと思いますか？

- ・ 自分が調べようと思ったことを調べる授業。
- ・ 単に先生の話聞くだけでなく、**自分自身が見つけた課題を周囲の人と協力して解決していけるような環境を整えられると良い。**

高大の学び×幸せな活躍

幸せな活躍をしている社会人の学び特性と高校・大学での学びを分析した結果、

- ① 高校の「学ぶ意義の理解」「まじめな学習態度」が、大学の「能動的な学び」の土台になっていた
- ② 高校の「学ぶ意義の理解」「探究的な学び」が、大学の「学びの意味づけ」に影響していた
- ③ これらをベースに「ソーシャル・ラーニング」を中心とした社会人での学び特性が形成、「幸せな活躍」に繋がっていた



社会人での「幸せ&活躍」

(出典) 中原淳・ベネッセ教育総合研究所・パーソル総合研究所『ハタチからの「学びと幸せ」探究ラボ調査分析結果(2025年2月19日)』より作成。 全国の25-35歳の就労者 2000名対象
※ 学びのスタイル→身につけた資質・能力のパス解析 カイ2乗値: 267.06($df=15, p=0.000$) GFF=0.972, CFF=0.971, RMSEA=0.092 ※パスの数値は標準化回帰係数、共分散、誤差間共分散は省略
※ R2=0.38 は38%の変動が説明変数によって説明される意

探究的な学び×ICTの活用で期待できる質の高まり



①課題の設定

多様な課題に出会うことができる
データ等で課題を明確化し、課題解決の見
通しを鮮明にできる

②情報の収集

多種多様な大量の情報を、高速に、時
間や空間を超えて収集・蓄積できる

③整理・分析

多様で大量で複雑な情報の整理や、整理
した情報の加工・分析が容易になる

④まとめ・表現

豊かな表現を短い時間で作成し、広く発信し
たり、自らの学びを振り返ったりできる



情報技術の活用により探究的な学びの質を向上する取組

(渋谷区の例)

渋谷区教育委員会における取組（授業時数特例校）

～探究×ICT～

- ◆渋谷区では、令和6年度より、未来社会に求められる、自ら課題を設定し、解決策を探る能力を育成するため、「シブヤ未来科」を大幅拡充。
 - ◆シブヤ未来科では、自ら考え判断して学び続ける「自己調整力」、多様な仲間と協働して新たな価値を生み出す「創造力」、自分が思い描く未来を実現しようとする「挑戦力」の育成を目指している。
 - ◆授業時数特例校制度を活用し、同制度の上限である各教科の時数のうち1割を総合的な学習の時間に当て、午後は探究「シブヤ未来科」の時間としている。
- ※総合的な学習の時間が70時間 → 155時間（小学校6年）
- ◆シブヤ未来科の実施に当たっては、本区が全国に先駆けて整備を進めてきたICT環境をフル活用している。



探究の道具としてのICT

探究における課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の各段階でMicrosoft365等を活用。



探究を支援するアプリ

探究支援アプリInspire Highを導入し、世界で活躍する人物とのセッションや、日本中の生徒と高め合う機会を提供。



区独自のハチアプリを使い、探究の振り返りや子供同士のフィードバックが可能に。



教員への支援

探究ハンドブックを作成し、タブレットで活用できるワークシートも配布。



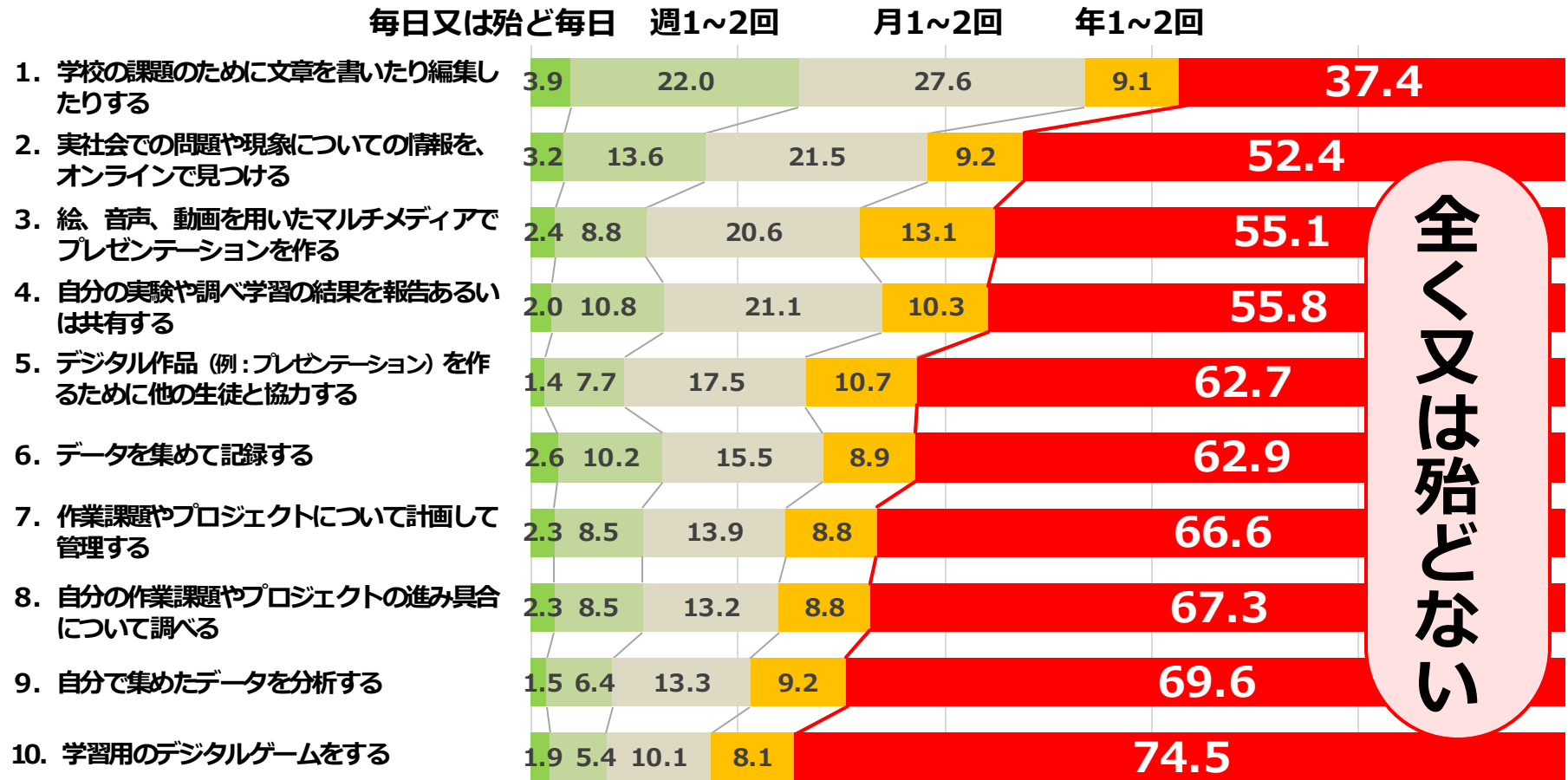
企業・団体とのマッチング支援のため、探究ポータルサイトを開設。



生徒・教師を対象とする調査の結果

PISA2022

探究的な学びにおけるICT活用 諸外国と比較して低位であり、伸びしろがある



全く又は殆どない

上記10項目を指標化して比較すると…

※ ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

OECD平均	0.01
日本 (29/29位)	-0.82

1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響についての調査 (学会等未発表データ, 速報値)

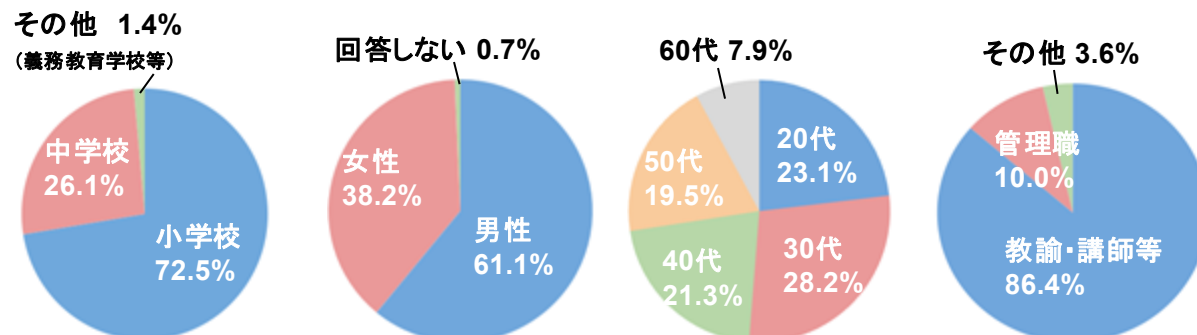
調査対象

全国の公立・私立の小学校・中学校に在籍する教師

回収数

回答数 279人

調査回答者の属性



調査方法・調査項目

Webフォームによる。フェイス項目 (9項目)

- ① 端末がないとできない探究的な活動の時短への影響を問う (14項目)
- ② 端末がないとできない探究的な活動の学習の質への影響を問う (14項目)
- ③ 端末がなくてもこれまでも行われてきた探究的な活動に対する端末の時短への影響を問う (40項目)
- ④ 端末がなくてもこれまでも行われてきた探究的な活動に対する端末の学習の質への影響を問う (40項目)

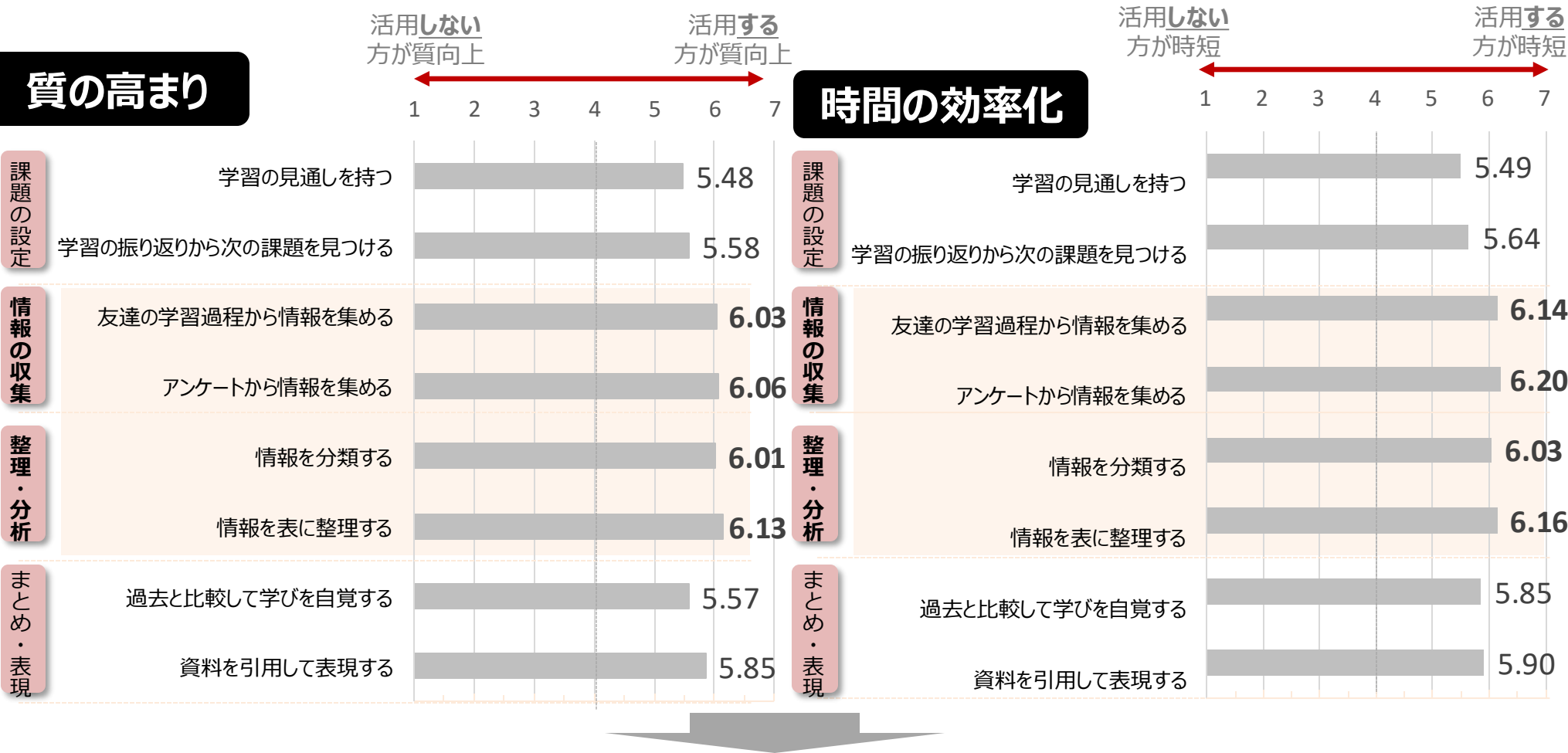
調査期間

2025年4月23日から5月2日までの10日間

(発表予定)

泰山裕, 登本洋子, 佐藤和紀, 堀田龍也: 1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響の検討. 日本教育工学会研究報告集 JSET2025-2 2025/07/05発表予定 (北海道大学)

- 探究的な活動で端末活用⇒活用なしと比べ、探究の質の高まり・効率化を実感
- 特に「情報収集」「整理・分析」の学習過程でスコアが高い（7点満点で6点以上）



質を低下させず時間短縮も可能とし、探究のプロセスで時間をかけるべきところに時間を確保し、質を高めることが可能に

（出典）泰山裕，登本洋子，佐藤和紀，堀田龍也「1人1台端末の活用の探究的な学習への質的・効率的影響についての調査」結果より作成。2025年4月23日から5月2日までの10日間でWebフォームを用いて全国の公立・私立の小学校・中学校に在籍する279名の教師から回答受領

※：上記表内の値は、これまでも行われてきた探究的な学習でよく行われる活動について、1：「端末を活用しない方が質が高まる」～7：「端末を活用する方が質が高まる」、もしくは「端末を活用しない方が時短になる」～7：「端末を活用する方が時短になる」の7段階の選択肢への教師の回答の平均値を指す。それぞれ40ほどの活動についての質問項目があり、紙面上、学習過程ごとに特に値が高い探究活動を中心に抜粋しているが、その他の活動においても値は平均値4以上のポジティブな回答。

191

端末の活用頻度が高い方が、 探究的な学びの質の高まり・効率化の実感が高い傾向

質の高まり

活用しない
方が質向上

活用する
方が質向上



課題の設定

学習の見通しを持つ



学習の振り返りから次の課題を見つける



情報の収集

友達の学習過程から情報を集める



アンケートから情報を集める



整理・分析

情報を分類する



情報を表に整理する



まとめ・表現

過去と比較して学びを自覚する



資料を引用して表現する



時間の効率化

活用しない
方が時短

活用する
方が時短



課題の設定

学習の見通しを持つ



学習の振り返りから次の課題を見つける



情報の収集

友達の学習過程から情報を集める



アンケートから情報を集める



整理・分析

情報を分類する



情報を表に整理する



まとめ・表現

過去と比較して学びを自覚する



資料を引用して表現する



質を低下させず時間短縮も可能とし、探究のプロセスで時間をかけるべきところに時間を確保し、質を高めることが可能に

「学習の基盤となる資質・能力」の課題と整理の視点

- 「学習の基盤となる資質・能力」は、各教科等の日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力
現在は「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが位置づけられているが、以下の課題

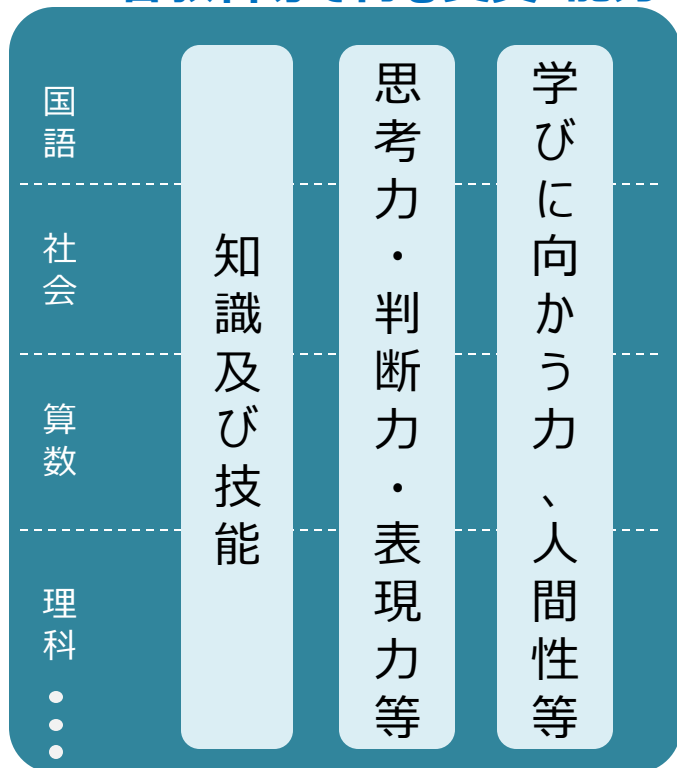
- ① 「情報活用能力」➡ 情報及び情報技術を適切に活用する力とされているが、社会でのデジタル技術の普及やGIGAスクール構想の進展等を踏まえると、情報技術を介さない情報活用(※)については具体的なイメージが持ちにくい、言語能力との重複があるとの指摘

※ 情報機器を用いない情報の整理・分析や情報の変化の傾向の把握など

- ② 「問題発見・解決能力」➡ 情報活用能力・言語能力との重複が見られるほか、考え方としては重要でも、資質・能力の具体や育成のための実践が必ずしも明らかでなく、具体的な実践に結びつきにくいとの指摘

➡ 「分かりやすく、使いやすい」学習指導要領を目指すため、各教科等の学習の基盤として、発揮可能な資質・能力を明確にでき、教育実践に落とし込める具体性を有したものに整理してはどうか。

各教科等で育む資質・能力



各教科等の
内容を通じて
育成を図る

日々の学習や生涯にわたる学びを
基盤として支える

学習の基盤となる資質・能力

言語能力

言語を用いてテキスト（情報）を理解し、文章や発話により表現するための力

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

情報活用能力

世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉えて把握し、**情報及び情報技術を適切に活用**して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な力

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

「情報及び情報技術の活用」とあるが、情報技術を介さない情報活用の具体的なイメージを持ちにくい

問題発見・解決能力

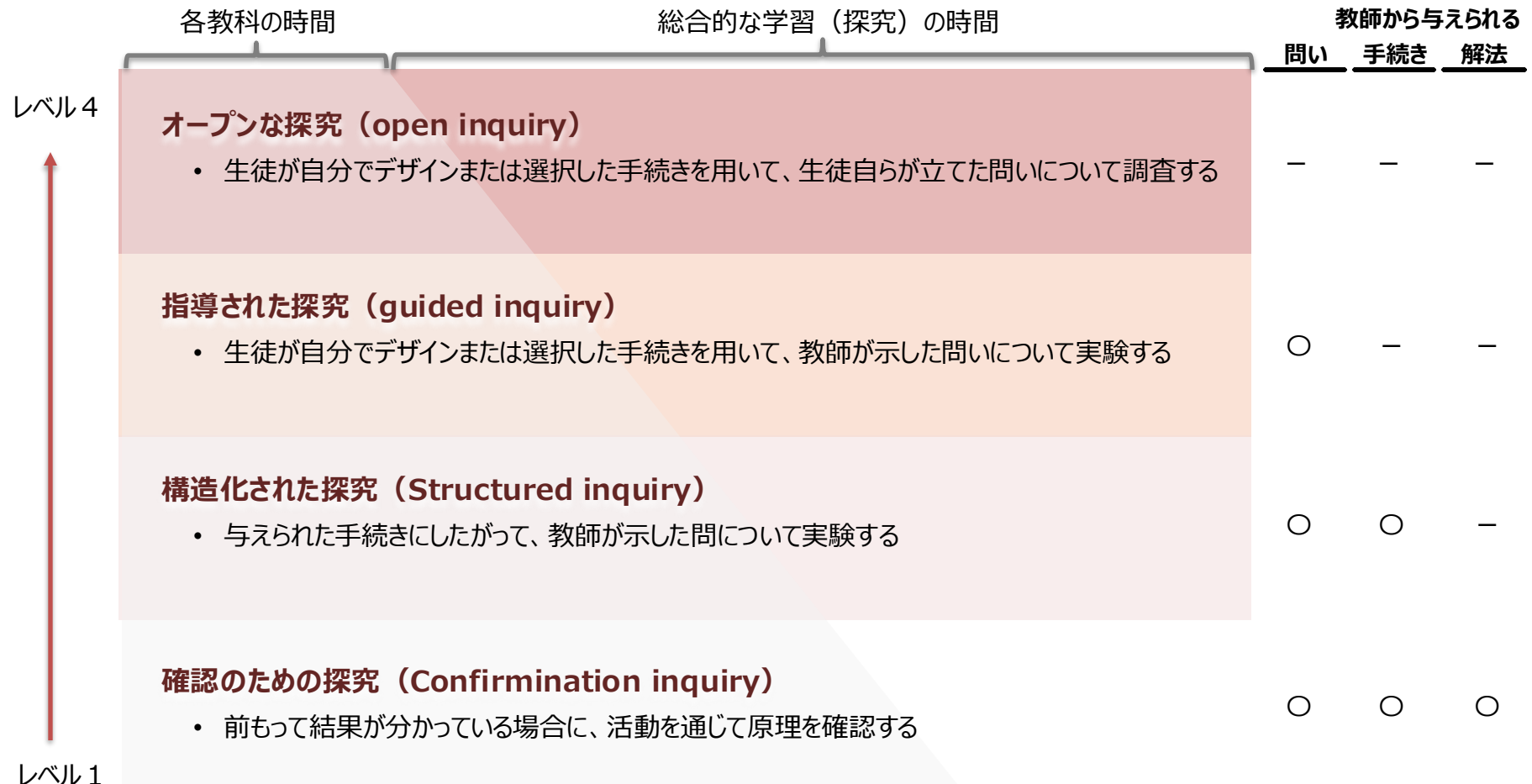
各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力

資質・能力を構成する
要素が明確となっていない

考え方としては重要でも、資質・能力の具体や実践の在り方が明らかとなっていない

探究的な学びの分類について

- Banchi,H., & Bell,R.（2008）は、教師から与えられる問、手続き、解法の提供範囲に応じて探究学習を複数のレベルに分類している
- レベル 1、2 の探究は各教科で実施されることが多く、より高度な探究と往還しあうことが重要とされる



探究的な学びと児童生徒のメタ認知方略等との関連

- 国内外の調査では、探究学習が児童生徒の自律的学習動機、メタ認知方略、創造的思考といった非認知能力と関連があることが示されている

動機付けやメタ認知方略との関連（国内）

- 地域や学校規模に配慮したうえで、国公立小学校に在籍する5年生から6年生の児童718名を対象に事前調査と事後調査を実施、SL（サービスラーニング）型総合的学習*と非認知能力との関連を調査

- 自覚的にSL型総合的学習に取り組んだ児童生徒と、そうではない児童生徒間では、メタ認知方略、自己効力感、動機付け（自律的学習動機）、動機付け（期待価値）の非認知能力に有意な差があった
- 自覚的にSL型総合的学習に取り組んだ児童生徒は、そうではない児童生徒と比較して動機付け（期待価値）やメタ認知方略に係る非認知能力が有意に上昇

*（a）プログラムをアカデミックなカリキュラムや体系的カリキュラムやそれらの目標に関連付ける、（b）若者の声を取り入れる、（c）コミュニティ・パートナーを関与させる、（d）リフレクションの機会を提供する、の4つの要素を含む学習

（出典）加藤智「初等教育におけるサービス・ラーニング型総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルに関する研究」（2022）日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要/38

創造的思考との関連（国外）

- 科学分野の探究型アプローチ（Inquiry-Based Approach）学習と従来型の学習双方を受けた初等中等教育段階の児童生徒1,349名（レバノン・マレーシア・タイ・インドネシア・台湾等）を対象に、探究型アプローチ学習と非認知能力との関連を調査

- 探究型アプローチ学習は、初等教育段階、中等教育段階いずれにおいても、従来型の学習と比較して児童生徒の論理的思考、創造的思考、批判的思考、問題解決力等に関連がある点が示された

（出典）Antonio, R.P. & Prudente M.S. (2024). Effects of inquiry-based approaches on students' higher-order thinking skills in science: A meta-analysis. International Journal of Education in Mathematics, Science, and Technology (IJEMST), 12(1), 251-281.

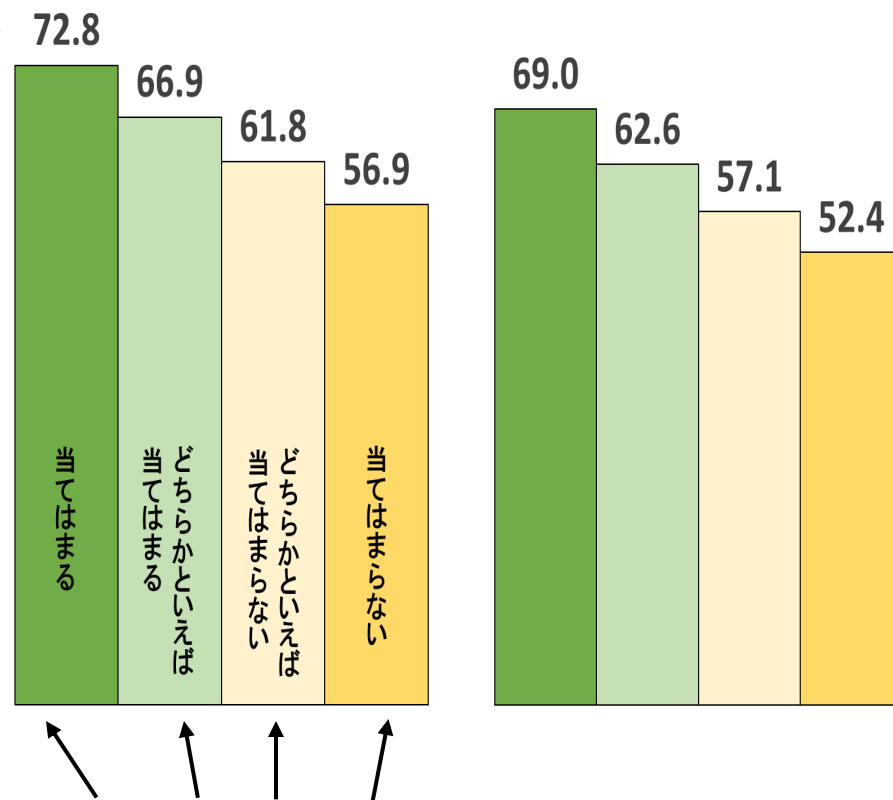
「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、 「平均正答率」が高い傾向

小学校

国語

算数

正答率



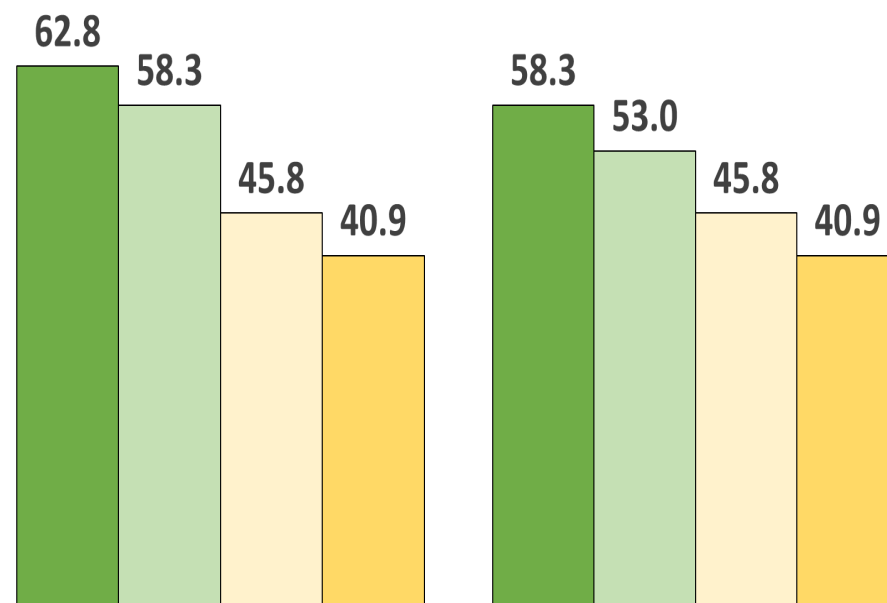
総合で探究的に学んでいる

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」

中学校

国語

数学



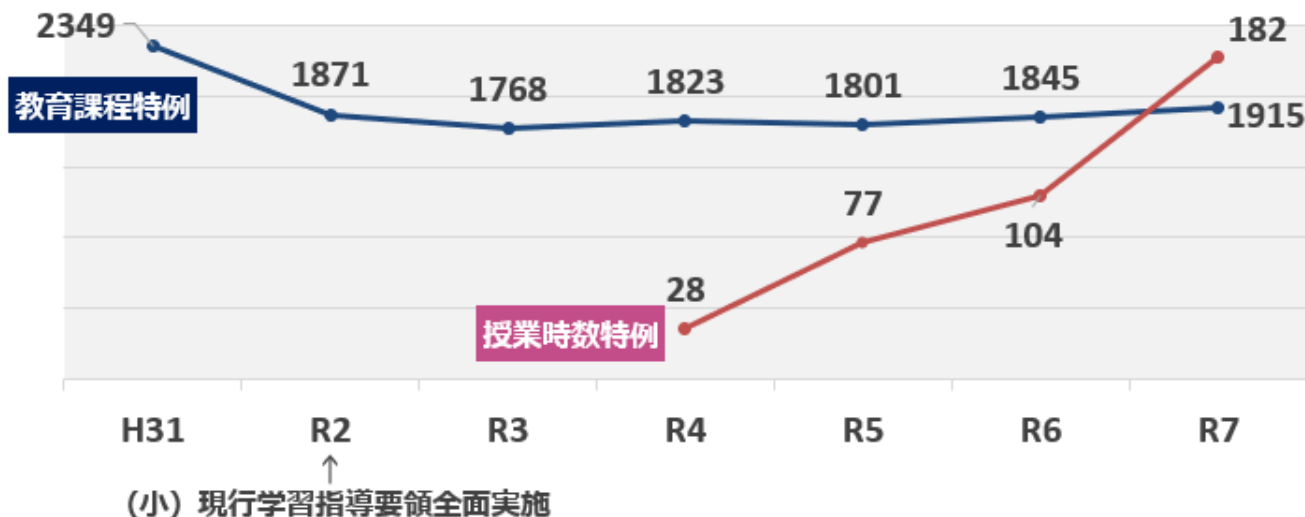
※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。

【出典】令和6年度全国学力・学習状況調査

教育課程特例校・授業時数特例校の状況

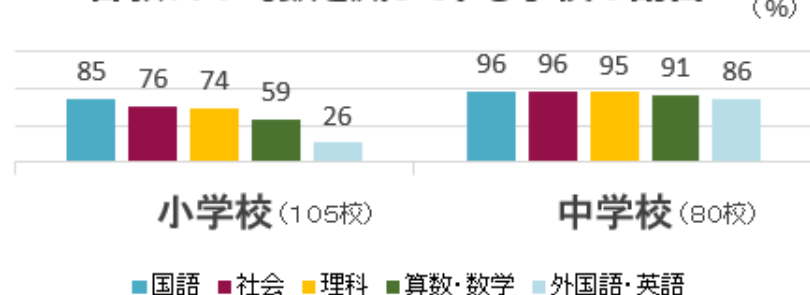
授業時数特例校においては、総合の時数を増やしている学校が9割以上

指定校数の推移

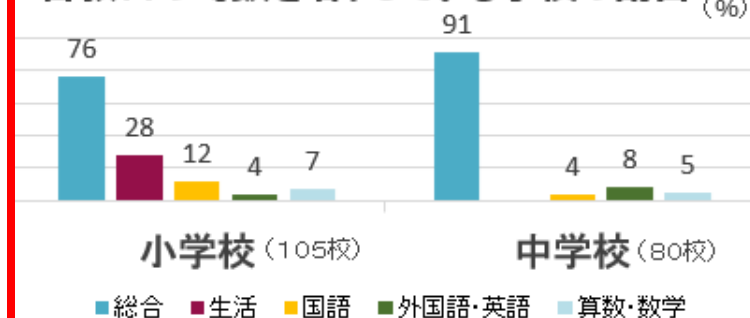


授業時数特例校における取組状況

各教科の時数を減じている学校の割合 (%)



各教科の時数を増やしている学校の割合 (%)

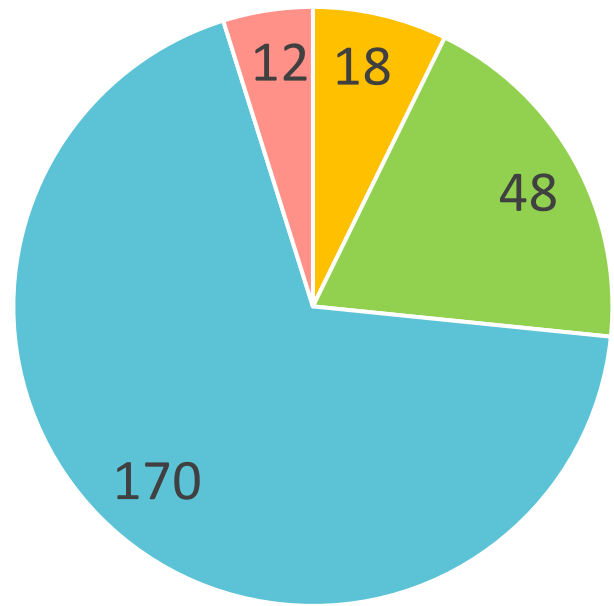


文部科学省における「探究」に係るイベントの調査の実施

- 都道府県等教育委員会が主催する「探究」に係るイベントについて、令和6年8～9月に調査を実施
- 調査結果は、文部科学省後援の民間主催のイベントと併せて、ホームページに一覧を公開

掲載件数：248件

(掲載内容：名称、概要、対象など)



- 民間団体
- 大学等
- 都道府県又は指定都市教育委員会
- 府省庁(所管法人含む)

No.	イベント名称	主催者	開催日時	開催場所	対象者	概要
1	探究 2024 全国大会	文部科学省	2024.10.10-11	東京	高校生	探究活動の成果を発表し、表彰される。また、探究活動の推進に関する講演やワークショップが行われる。
2	探究 2024 全国大会	文部科学省	2024.10.10-11	東京	高校生	探究活動の成果を発表し、表彰される。また、探究活動の推進に関する講演やワークショップが行われる。
3	探究 2024 全国大会	文部科学省	2024.10.10-11	東京	高校生	探究活動の成果を発表し、表彰される。また、探究活動の推進に関する講演やワークショップが行われる。
4	探究 2024 全国大会	文部科学省	2024.10.10-11	東京	高校生	探究活動の成果を発表し、表彰される。また、探究活動の推進に関する講演やワークショップが行われる。
5	探究 2024 全国大会	文部科学省	2024.10.10-11	東京	高校生	探究活動の成果を発表し、表彰される。また、探究活動の推進に関する講演やワークショップが行われる。



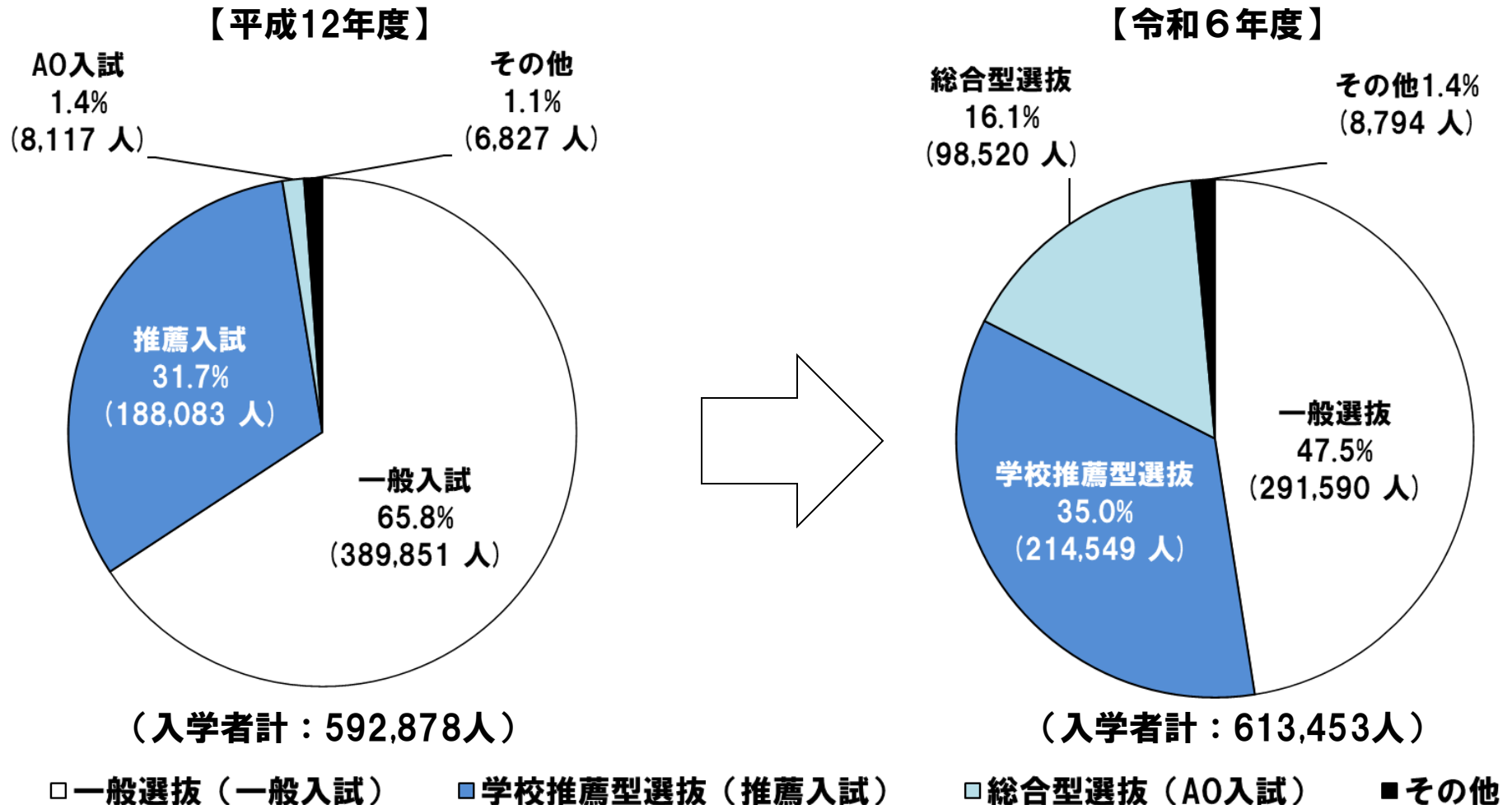
リンク先

文部科学省後援の民間探究イベントの例

イベント名	主催	対象	リンク先
SDG s 探究AWARDS	一般社団法人 未来教育推進機構	中学生 高校生	
STEAM JAPAN AWARD	STEAM JAPAN	中学生 高校生	
SDG s QUEST みらい甲子園	SDGs QUEST みらい甲子園事務局	高校生	
Q-1 ～U-18が未来を変える★研究発表SHOW～	朝日放送テレビ	高校生	
高校生Ring	リクルート	高校生	
創造力、無限大∞ 高校生ビジネスプラン・グランプリ	日本政策金融公庫	高校生	

大学入試の変化について

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、総合型選抜、学校推薦型選抜を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



(注) 「その他」(平成12年度) : 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など
「その他」(令和6年度) : 専門学科・総合学科卒業生選抜、社会人選抜、帰国生徒・中国引揚者等生徒選抜及びその他選抜

高校入試の変化について

「高校教育の改革」「公立高校入試倍率の低下」等を背景に、各自治体が公立高校の入試改革を進めている。

広島県 2023年度～

- ・ 推薦入試を廃止し、一般選抜に一本化
- ・ 自己表現(自己表現カード+面接)を必須に
- ・ 学力検査:調査書:自己表現=6:2:2
- ・ 各学校独自の「特色枠」を設定可に(定員の50%以内)

大阪府 2026年度～

- ・ ボランティア、探究活動、起業、クラブ活動などを重点的に評価する「特色枠」を新設
- ・ 複数校志望制を導入。第一志望を不合格になっても、第二志望の選抜を受けられる。
- ・ 入試日程の3月→2月への前倒し

愛知県 2023年度～

- ・ 「特色選抜」を導入。(面接+作文 基礎学力検査 プレゼンテーション 実技検査 から1つ で選抜)
- ・ 複数校志望制を導入。Aグループ、Bグループからそれぞれ第一志望、第二志望を選択。
- ・ 面接の有無は各学校ごとに判断

埼玉県 2027年度～

- ・ 自己評価資料の提出と面接をすべての受験生に求める
- ・ 共通選抜(旧来の一般選抜)に加え、各高校の判断で「特別選抜」を実施できるようにする(学力検査・調査書・面接に加え、実技検査・小論文等の実施や学力検査等の傾斜配点を行うことができる)

全国的な趨勢としては「面接重視」「ペーパーテスト以外の評価重視」の方向。一方で、神奈川県のように従来必須としてきた面接をとりやめる動きもある(背景に面接の形骸化／学校ごとの取り扱いの格差)

(出所)小村俊平ベネッセHD経営企画推進本部長 発表資料をもとに作成

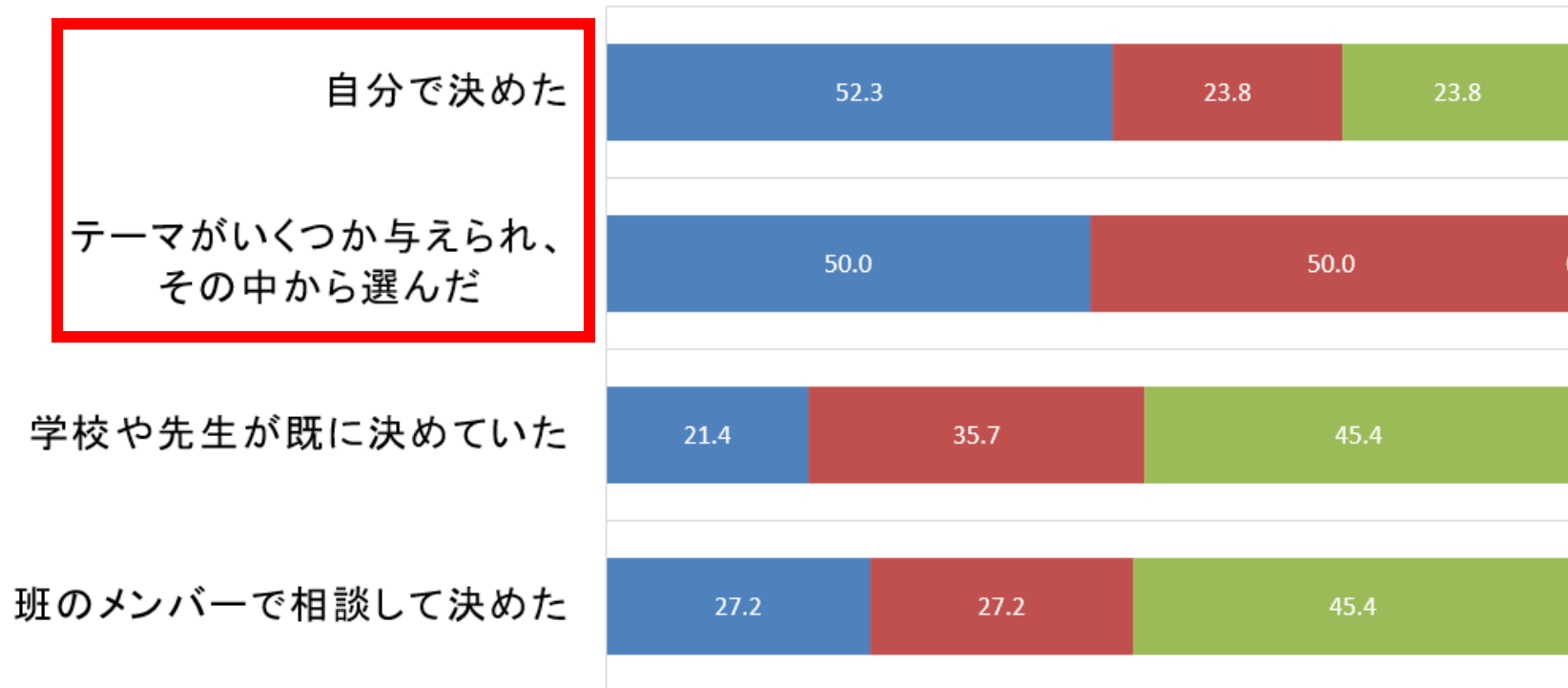
探究テーマの設定とキャリア観の関係

探究テーマを自分で決めた・選んだ場合に、
探究活動が将来のキャリア形成により大きな影響を与えるとの調査結果

テーマの決め方とキャリア観の関係

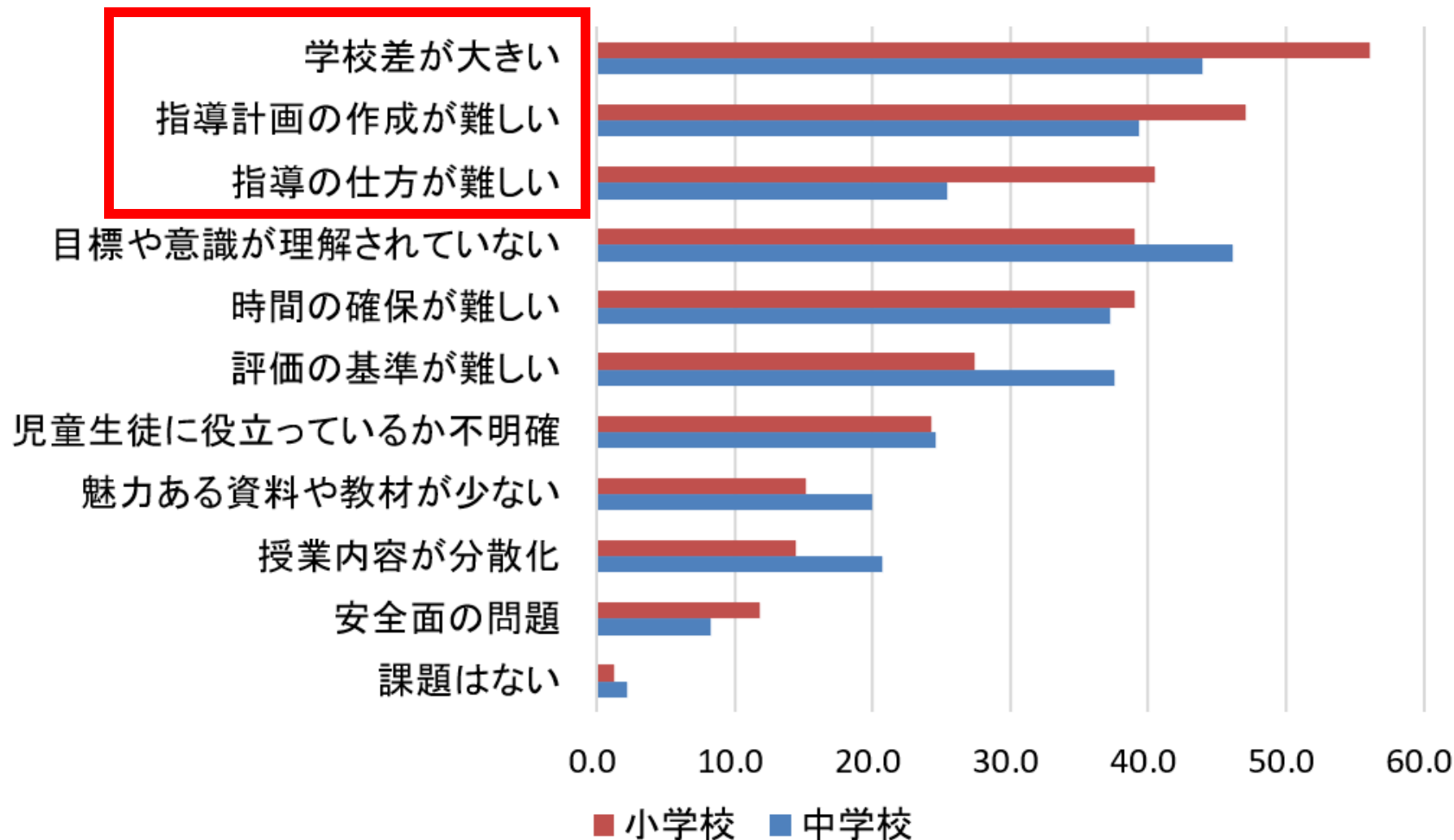
【質問】 探究活動が将来のキャリア選択に影響を与えましたか？

■ はい ■ いいえ ■ わからない



総合的な学習の時間に関する課題（小中学校教員）

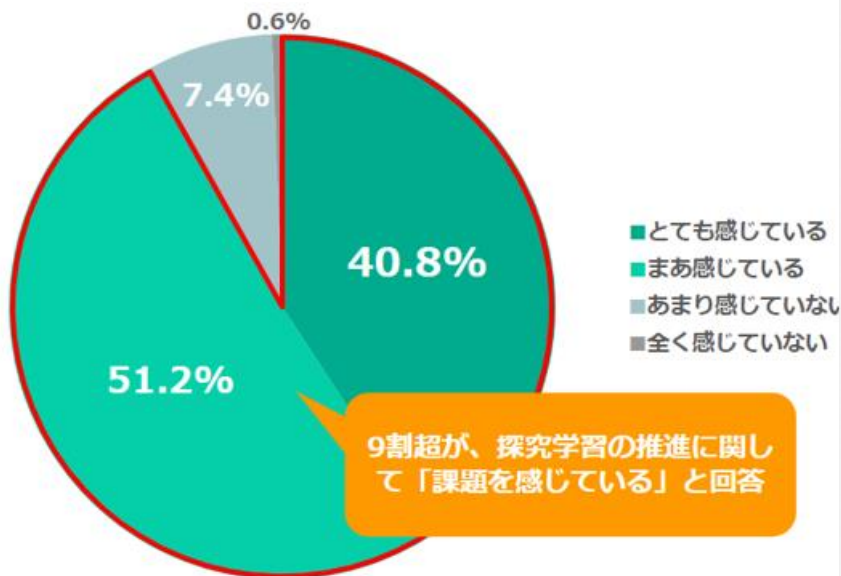
学校差が大きい、指導計画の作成が難しい、指導の仕方が難しい
等の課題感があるとの調査結果



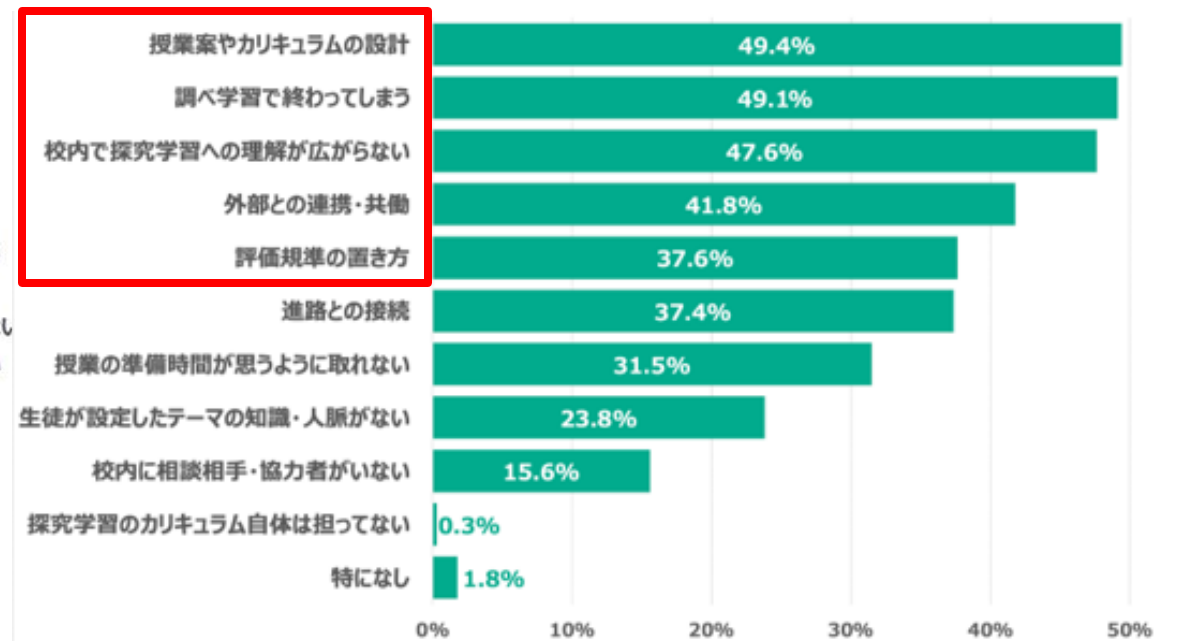
総合的な学習の時間に関する課題（高校教員）

探究に関わる高校教員の9割超が「課題を感じている」と回答し、特にカリキュラムの設計や、調べ学習で終わってしまう等の課題があるとの調査結果

探究学習の推進について、
どの程度課題を感じていますか？



探究学習の推進について、特に課題だと感じるのは
どのようなことですか？

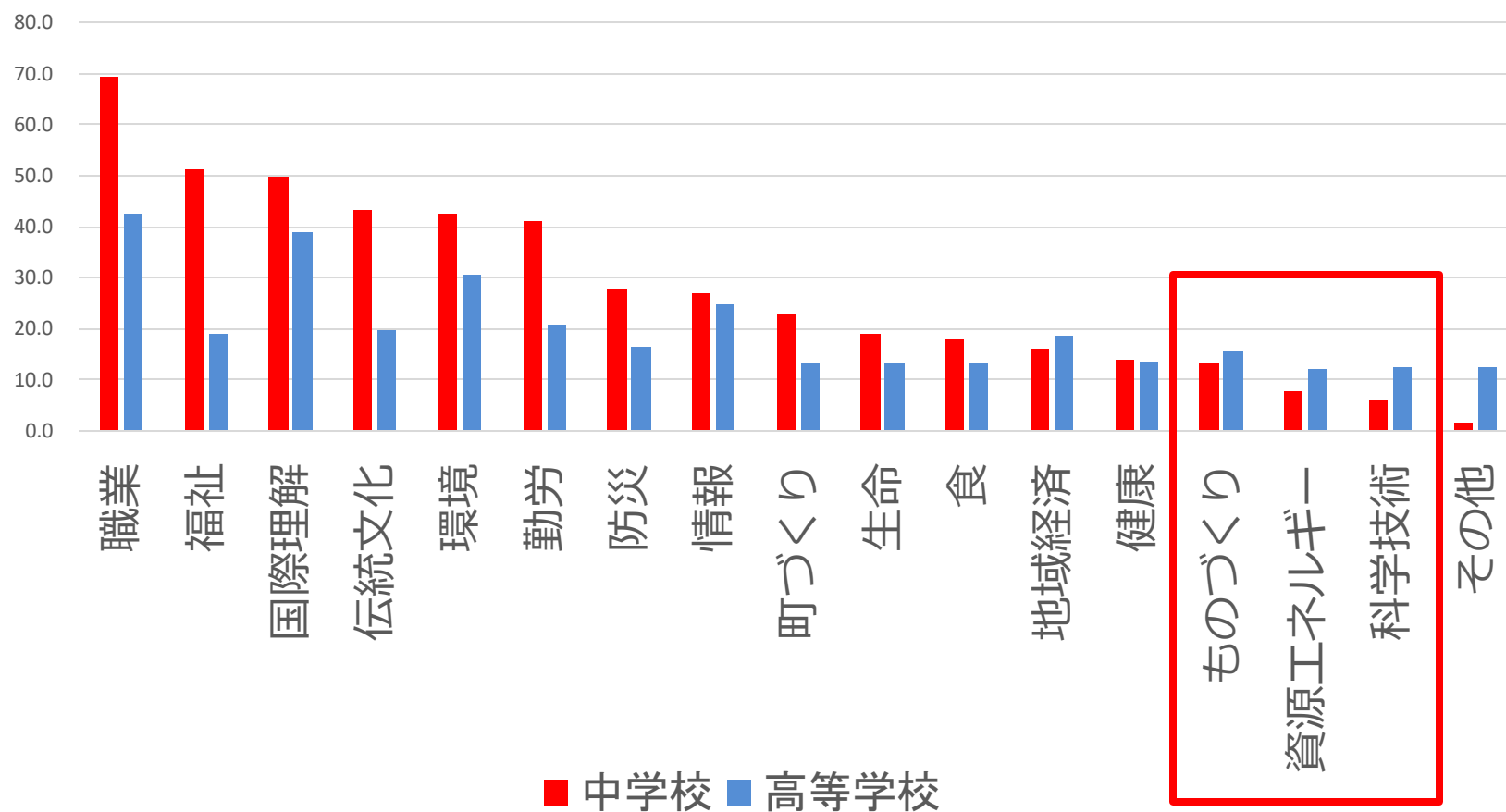


(出典) 特定非営利活動法人カタリバによる調査結果2023
(対象: 生徒たちの探究学習をサポートしている高校教員340名)

総合的な学習の時間に関する課題（高校教員）

テーマ設定に関して、「ものづくり」「資源エネルギー」「科学技術」など、サイエンスに関するものが少ないとの調査結果

探究学習の授業でよく取り扱うテーマ（中高別）





第五章 「余白」の創出を通じた 教育の質の向上の在り方

(論点整理 P62～69関係)

1. 週当たり授業時数の考え方（学習指導要領・解説）

小学校学習指導要領総則

(2) 授業時数等の取扱い

ア 各教科等の授業は、年間35週（第1学年については34週）以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が児童の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。

小学校学習指導要領解説（総則編）P60

各教科等の授業時数を年間35週（第1学年については34週）以上にわたって行うように計画することとしているのは、各教科等の授業時数を年間35週以上にわたって配当すれば、学校教育法施行規則別表第1において定めている年間の授業時数について児童の負担過重にならない程度に、週当たり、1日当たりの授業時数を平均化することができることを考慮したものである。したがって、各教科等の授業時数を35週にわたって平均的に配当するほか、児童の実態や教科等の特性を考慮して週当たりの授業時数の配当に工夫を加えることも考えられる。各学校においてはこの規定を踏まえ、地域や学校及び児童の実態等を考慮し、必要な指導時間を確保するため、適切な週にわたって各教科等の授業を計画することが必要である。

2. 「不測の事態」で標準授業時数を下回る場合の取扱い（学習指導要領解説）

小学校学習指導要領解説（総則編）P60

なお、学校教育法施行規則第51条において、別表第1に定めている授業時数が標準授業時数と規定されているのは、①指導に必要な時間を実質的に確保するという考え方を踏まえ、各学校においては、児童や地域の実態を十分に考慮して、児童の負担過重にならない限度で別表第1に定めている授業時数を上回って教育課程を編成し、実際に上回った授業時数で指導することが可能であること、②別表第1に定めている授業時数を踏まえて教育課程を編成したものの災害や流行性疾患による学級閉鎖等の不測の事態により当該授業時数を下回った場合、その確保に努力することは当然であるが、下回ったことのみをもって学校教育法施行規則第51条及び別表第1に反するものとはしないといった趣旨を制度上明確にしたものである。

現行教育課程における単位授業時間の多様な設定例

- ◆ 実現したい教育活動に応じて、総授業時数を確保した上で、単位授業時間を柔軟に運用している例が見られる。
- ◆ 45分の単位時間を5分短縮するだけでなく、15-20分の短い時間を設ける、100分といった長い授業時間を設ける、短い時間と長い時間を組み合わせて活動の特質に応じて組み合わせるなど、多様な工夫が行われている。

横浜国立大学附属横浜小学校

- 午前中は40分×5コマを実施
- 午後は20分・40分の1コマずつを実施し柔軟に運用（例：20分を個別のスキル学習に充てる、20分と40分のコマを組み合わせ60分じっくり探究する時間を設ける等）

0830	登校～朝の会	
0910	1時限目	40分
0915	2時限目	40分
0955	3時限目	40分
1000	中休み	
1040	4時限目	40分
1100	5時限目	40分
1140	給食・清掃・昼休み	
1145	学習タイム	20分
1225	6時限目	40分
1340	帰りの会	
1400		
1440		
1450		

必要に応じて統合

東浦町立緒川小学校

- 2コマ分を連続させたブロックを基本とし、じっくりと学びに取り組む時間を確保
- 児童の活動の実態に応じて、教科間の時間の切れ目は柔軟に運用

0855	読書タイム、朝の会	
1030	Iブロック	95分
1055	中休み	
1230	IIブロック	95分
1355	給食・清掃・昼休み	
1530	IIIブロック	95分
1540	帰りの会	

さいたま市立大宮国際中等教育学校

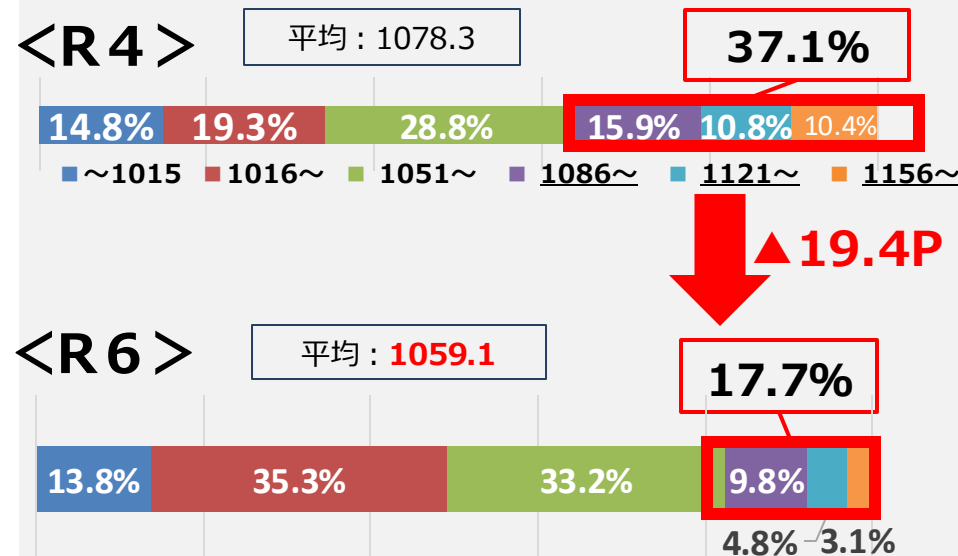
- 50分2コマ分を連続させたタームを基本とし、じっくりと学びに取り組む時間を確保。
- 朝にオールイングリッシュでの表現活動を行う時間を15分間設ける

0835	出席確認	
0850	英語活動	15分
0900	ターム1	100分
1040	ターム2	100分
1055	昼食・昼休み	
1235	ターム3	100分
1335	リフレクションの時間	15分
1515	清掃	
1530	放課後活動	
1545		
1730		

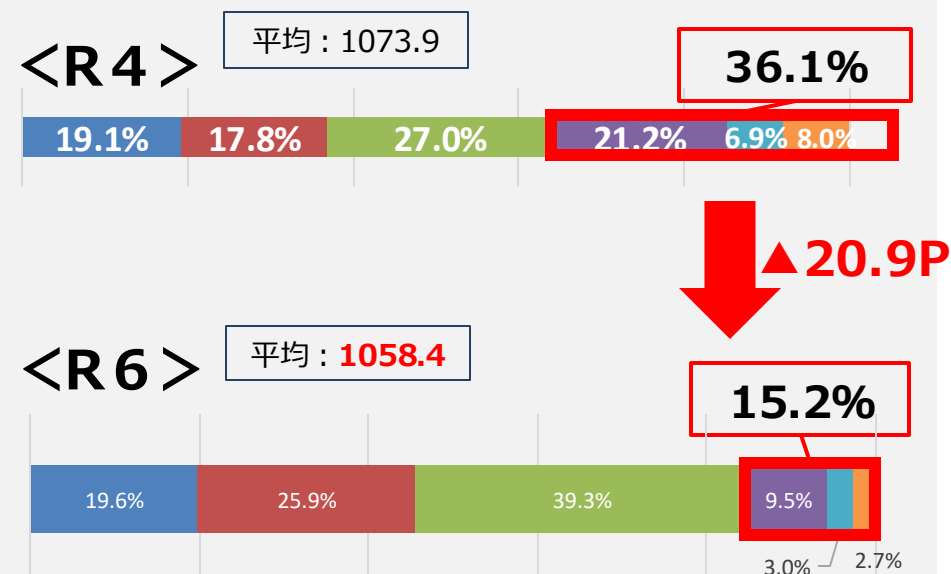
総授業時数の状況（令和6年度計画段階）

- 標準授業時数（1,015単位時間）に対して、小学校5年で平均1,059単位時間、中学校2年で平均1,058時間の教育課程が編成されている。
- 標準授業時数を大幅に上回る**1,086単位時間以上**の学校は、**大きく減少しているが、依然として20%程度存在。**

小5



中2



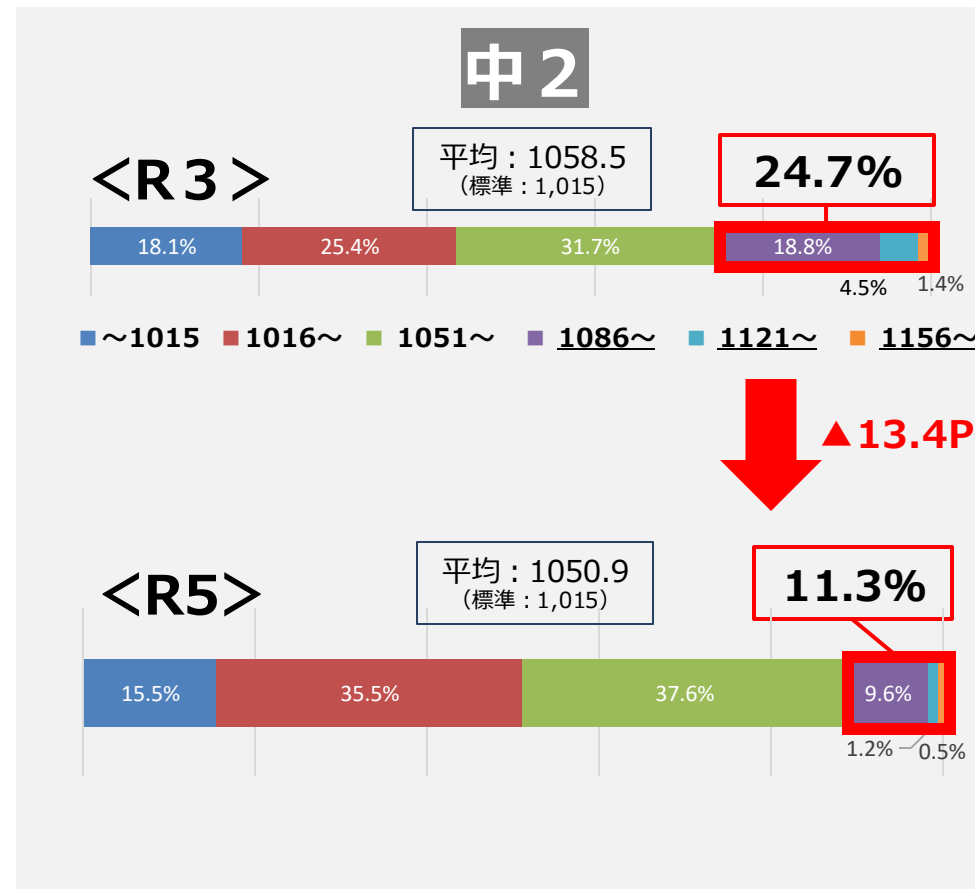
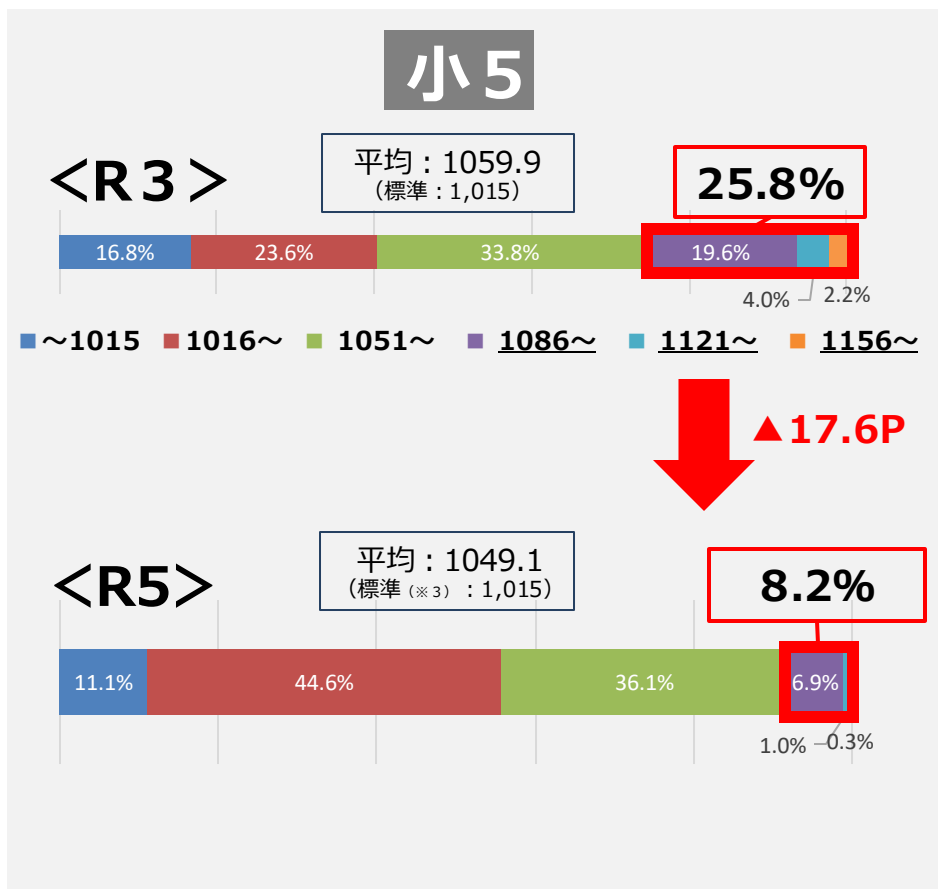
【出所】令和5年度教育課程編成・実施状況調査

※1 学校教育法施行規則に示す各教科、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動のみ）に充てる年間の授業時数を指し、学級活動以外の特別活動の時間は含まない。

※2 1単位時間は、小学校においては45分、中学校においては50分として計算している。

※3 学校教育法施行規則別表第1・別表第2に定める標準授業時数を指す。

総授業時数の状況（令和5年度実績）



【出所】令和5年度教育課程編成・実施状況調査

※1 学校教育法施行規則に示す各教科、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動のみ）に充てる年間の授業時数を指し、学級活動以外の特別活動の時間は含まない。

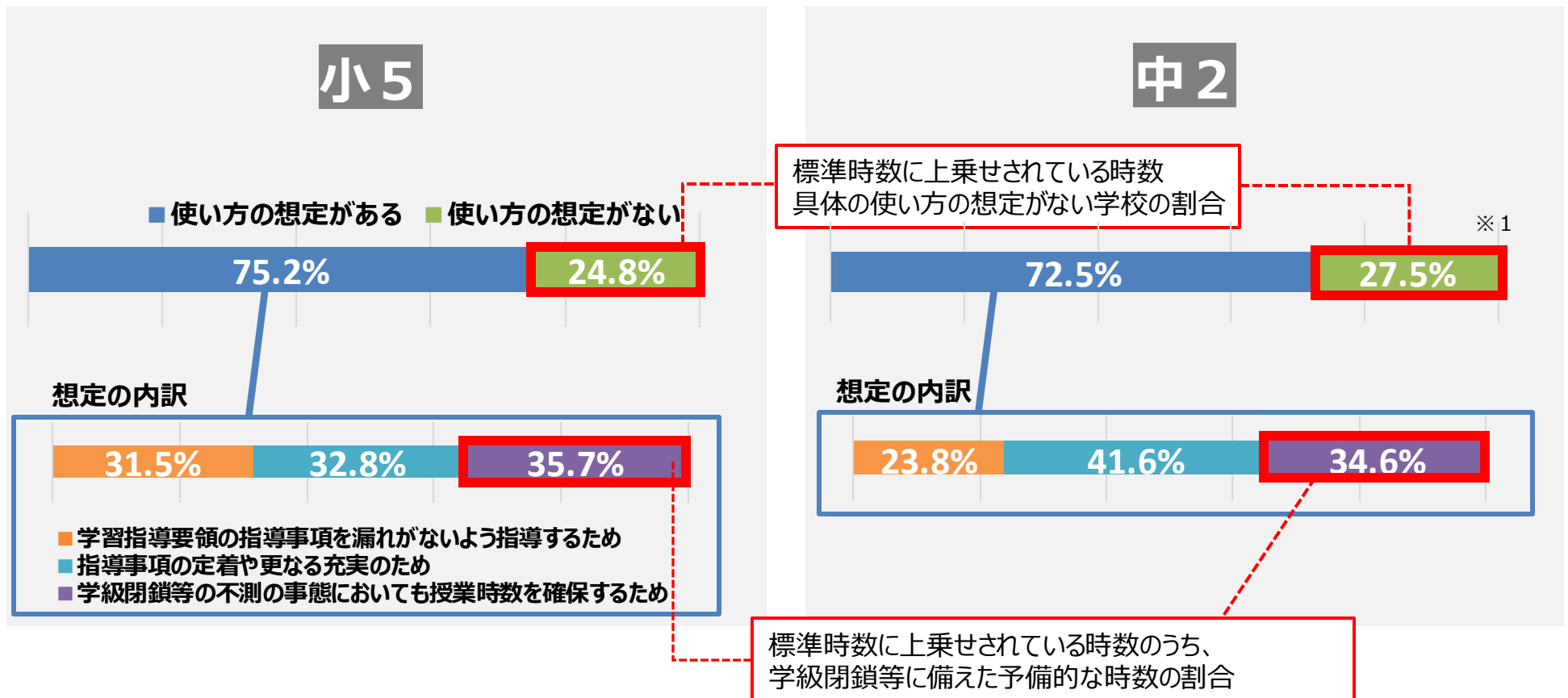
※2 1単位時間は、小学校においては45分、中学校においては50分として計算している。

※3 学校教育法施行規則別表第1・別表第2に定める標準授業時数を指す。

※4 平成29年度は中学校第1学年の授業時数の実績の数値。

標準を大幅に上回る時数の使い道の想定

- 1,086単位時間以上の教育課程を編成している学校のうち、標準授業時数（1,015単位時間）を上回る部分の**具体的な使い方を想定していない学校が約25%程度存在**。真に必要な時間か検討し、改善を図る必要。
- 標準に上乗せされている時数の**約35%が学級閉鎖等の不測の事態のための予備的な時数**に充てられている（国はこうした事態で標準を下回ったことのみをもって法令に反するものではないことを示している）。



【出所】令和6年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査

※母数は令和6年度の授業時数について、1,086単位時間以上と回答した学校数（小：3,249校、中：1,394校）。

週当たり授業時数の考え方と実態

1. 週当たり授業時数に係る考え方

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について(答申)(抄)

国が定める年間の標準授業時数の1,015単位時間を35週(※1)にわたって実施することを前提に、**週当たり29単位時間の授業を行う必要があるとの認識が学校には根強く、標準授業時数を大幅に上回った教育課程編成の見直しを学校が実施することが困難**との指摘もある。しかし、実際には年間の授業日数は200日程度(40週)が一般的であり、**必ずしも1,015単位時間を確保するために週29単位時間の授業を実施する必要はない**(※2)。

※1 小学校学習指導要領の総則には「各教科等の授業は、年間35週(第1学年については34週)以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が児童の負担過重にならないようにするもの」と記載(中学校も同様)

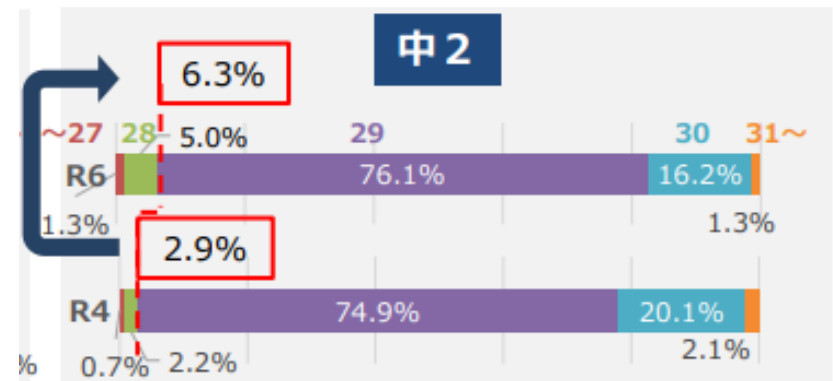
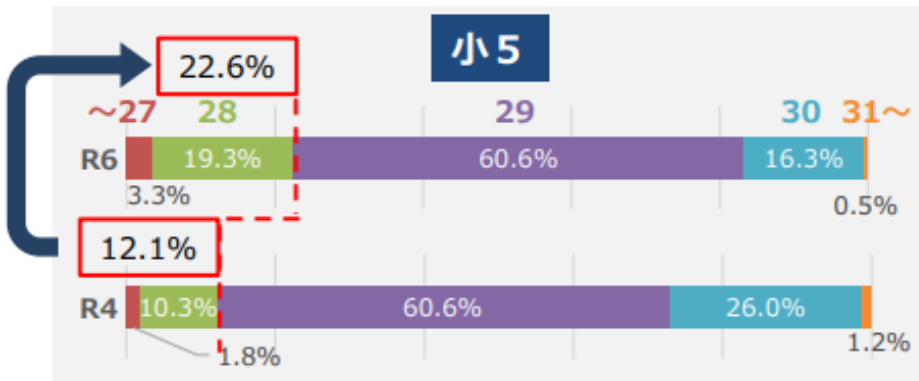
※2 年間の標準授業時数1,015単位時間を週当たり27単位時間で実施した場合、1015単位時間=27単位時間×37.6週(188日)となる。

年間の総授業日数の平均※令和6年度計画ベース
小学5年 202.4日 中学2年 203.0日

35週で実施する場合の週当たりコマ数
 $1015\text{単位時間} \div 35\text{週} = 29\text{単位時間} / \text{週}$

2. 週当たり授業時数の実態

小学校、中学校いずれも週当たり授業時数を28コマ以下で設定する学校の割合が増えているが、小学校5年では約60%、中学校2年では約75%の学校は29コマに設定している。



現行の教育課程における 週当たり授業時数の工夫例

＜東京都渋谷区立笹塚小学校＞

- 渋谷区として総授業時数の計画が標準授業時数となるように域内の学校に指導・助言。
- 週当たりの授業時数を28単位時間に設定し、水曜日を4コマ、それ以外の曜日を6コマに設定。
- 授業間の休憩を5分にすることや、普段の清掃は係活動の一環として日常で行い、一斉の清掃活動は水曜日のみ行う等の工夫で、6コマの日でも下校時刻を15:00に設定
- 水曜日を4コマに(児童の最終下校時刻を13:00に設定し、午後を教員研修やスキルアップの時間として活用)

＜東京都八王子市教育委員会＞

- 市として、総授業時数は標準授業時数に18単位時間を加えた時数を上限とし、週当たりの授業時数は28単位時間を上限とする指針を示し、所管の学校に指導・助言。
- 各学校がこれを踏まえて教育課程編成を工夫し、全小・中学校で週当たり授業時数を27単位時間又は28単位時間とする教育課程編成を実現。

＜埼玉県深谷市教育委員会＞

- 各学校の校長・教職員から意見聴取した上で、市教委が具体的な週時程や時間割、時数計算等の例を示し、週当たり授業時数が28単位時間になるよう指導・助言。
- 各学校がこれを踏まえて教育課程を編成し、域内の全小・中学校等で週当たり授業時数を28単位時間以下とする教育課程を実現。

研究開発学校の取組

(目黒区立中目黒小学校・愛荘町立秦荘西小学校)

1. 特例の概要

- 1 単位時間を45分から40分に変更し、午前中に 5 コマの授業を設定することで、標準総授業時数を下回って時間を生み出す
- 生み出された時間を活用し、子供の主体性を伸ばす教育活動、授業改善に繋がる教員研修や教材研究等に充当

通常の学校 (1コマ45分)

45分×1,015コマ

研究開発学校 (1コマ40分)

40分×1,015コマ

5分×1,015コマ

5,075分

生み出した時間

127コマ



- 通常の授業の中でもICTを活用することで、短くした1コマの中でも効果的な指導を行う。
- 1コマが短くなったことで、通常の授業においても、単元としてのつながりや、見方・考え方を働かせる授業デザインをより意識した授業を展開。

2. 生み出した時間の使い道

目黒区

- 子供が教材・ペースを自分で選びながら学ぶ単元内自由進度学習 (マイプラン学習) を行ったり、子供たちが自分でテーマを決めて主体的に学ぶ時間 (フリースタイルプロジェクト) を設けたりするなど、子供の主体性を伸ばす教育活動を展開。教員の研修や授業準備等も実施。
- 全国学調の正答率に大きな変化はなく、学校により状況に差はあるが、時間外在校等時間の減少といった成果もみられる。

学力各教科正答率 (%)								
	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和元年度	
	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科	国語科	算数科
研究開発学校 (15校)	74.3	72.5	73.7	72	73.2	77	71.2	72.8
全国平均	67.2	62.5	69	67	64.7	63.8	63.8	66.6
都平均	69	67	65.6	63.2	68	65	65	70

【表1】月当たりの時間外在校等時間 (平均時間)

令和3年度 (4月～3月)	50:16
令和4年度 (4月～3月)	44:04

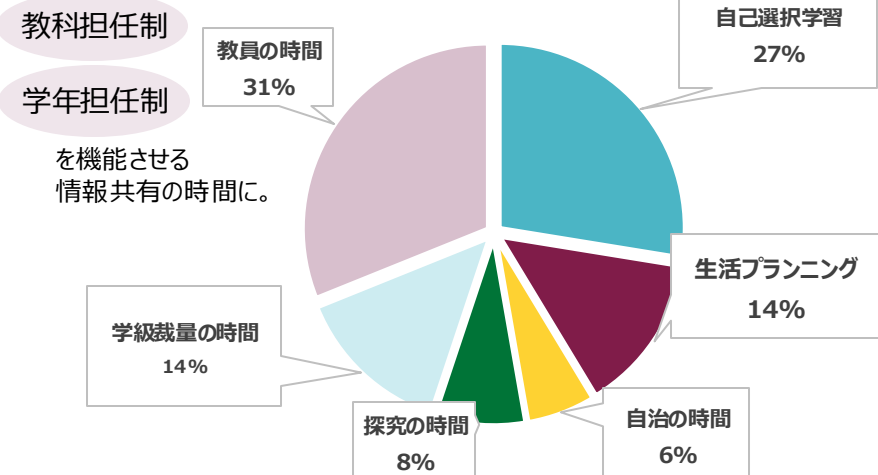
-6:12

出典：令和5年研究開発学校目黒区報告資料より

愛荘町

- 目黒の取組に加え、自己調整力を育成する時間に充てたり、教員間での児童に関する共通理解を図るための情報交換や相談、授業づくり・教材研究に関する研修やOJT等を実施。

生み出した127コマの活用



目黒区の研究開発学校における日課表の事例（2025年度 目黒区立鷹番小学校4～6年の事例）

1 単位時間を5分間短縮（45分→40分）して生み出した時間（127コマ）を活用し、
85コマ：子供の主体性を伸ばす学習活動のための時間 **42コマ**：教員の研修や授業研究のための時間（※1,2） に活用。

※1 日課表の研修・研究等の時間は、生み出した時間と従来の教師の放課後の時間を組み合わせて実施。
※2 休憩時間を除く。
※3 個々の教師の持ちコマについては、教科担任制により空きコマがあることに留意。
※4 日課表や生み出した時間の活用の在り方は学校ごとに異なる。

	月	火	水	木	金
8:10	登校				
8:20	朝の会				
8:30	目標づくり・振り返り・ 主体的な活動の時間 (月2回程度・ 1～5限のうち1コマ)	1限	異学年交流 (月1回程度・ 2～5限のうち1コマ)	1限	
	2限・3限				
10:40	休み時間				
11:00	4限・5限				
12:25	給食				
13:10	昼休み		6限 (60分)	昼休み	
13:30	全校昼会	体力向上・読書		掃除	集会・音楽昼会
13:50	掃除			委員会(45分) クラブ(60分)	自己選択学習
14:10	6限				
	帰りの会			帰りの会	
	下校 15:05		下校 14:35	下校 15:00 or 15:15	下校 14:45
	基礎基本の自主学習 (希望者30分)	児童理解の時間	基礎基本の自主学習 (希望者30分)	指導力向上の時間(学年会、研修等) or 教師の裁量的時間	
15:40	教材研究		会議など		
	教師の休憩時間(会議などは原則入れない)				
16:40	夕会	教師の裁量的時間			生活指導夕会

学習指導要領-教科書-教師用指導書の関係①

【ポイント】学習指導要領も解説も、取扱う事実的知識を網羅的に指定してはいない

● 中学校学習指導要領〔歴史的分野〕 鎌倉時代関連

2 内容

B 近世までの日本とアジア

(2) 中世の日本

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流

鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解すること。

イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。

(ア) 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や工業の発達など着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの（ア）から（ウ）までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

● 中学校学習指導要領解説（社会編） 抜粋

この事項のねらいは、武家政治の特徴を考察して、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったこととともに、元寇（モンゴル帝国の襲来）がユーラシアの変化の中で起こったことを、次のような学習を基に理解できるようにすることである。

学習に際しては、例えば、この中項目（2）のイの（ア）に示された「武士の政治への進出と展開」などに着目して、武家政治の特徴を考察できるようにしたり、イの（ア）に示された「東アジアにおける交流」などに着目して課題（問い）を設定し、モンゴル帝国の拡大の様子を背景に考察したりできるようにすることなどが考えられる。これらの考察の結果を表現する活動などを工夫して、「武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解できるようにする」という、この事項のねらいを実現することが大切である。

鎌倉幕府の成立については、武士が台頭して、武家政権が成立し、その支配が広まるという、武家政治の成立の背景と推移を扱うようにする。また、天皇や貴族の政治との違いという観点から、古代から中世への転換の様子に気付くことができるようにする。元寇（モンゴル帝国の襲来）については、元寇が国内に及ぼした影響などに気付かせるとともに、元寇の背景について、「モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結び付き」（内容の取扱い）などの地理的な確認を基に、元（中国を中心としたモンゴル帝国東部）の君主が帝国全体の君主でもあったことなどを踏まえ、モンゴル帝国がアジアからヨーロッパにまたがる広大な領域を支配し、東西の貿易や文化の交流が陸路や海路を通して行われたことなどに気付くことができるようにする。

学習指導要領-教科書-教師用指導書の関係②

【ポイント】検定教科書では、学習指導要領の該当部分に対応して10ページ程度が確保され、多くの用語や発展的要素等が盛り込まれている

※著作権者への配慮から一部図について掲載を控えております

・図・写真などの資料の充実

・資料の読み取りや協働的な活動など多様な学習活動の例示

・振り返り

・コラム的資料

・本文上で7つの太字の単語

2 モンゴルの襲来

③フビライの国書 (部分要約)
…高麗は私の東方の属国である。日本は高麗に近く、ときどき中国に使いを送ってきたが、私の時代になってからは一人の使いもよこさない。…今後はたがいに訪問し友好を結ぶのではないが、…武力を使いたくはないのでよく考えてほしい。

④北条時宗 (1251～54)
モンゴルの襲来に対応した幕府の執権
時宗が執権になった前後から、フビライがたびたび手紙でモンゴルに言うように求めました。時宗は返事を送らず、その結果起ったモンゴルの襲来に際して、御家人に防衛を命じるなど対応に当たりました。(神皇正統記 門閥寺職)

⑤中国や高麗でフビライへの反乱が起こり、ベトナムでも元を反抗する動きが盛んになっていました。

二度の襲来
⑥フビライ・ハンは高麗を従えた後、さらに日本を従えようと、使者を送ってきました。執権の北条時宗がこれを無視したため、元は高麗の軍勢も合わせて攻めてきました。1274(文永11)年には、対馬・喜望峯をおそった後に九州北部の博多湾(福岡市)に上陸し、集団戦法と火薬を使った武器で幕府軍を苦しめました。しかし、短期間で力を見せつける目的だったことや、元と高麗との対立もあって、引きあげました(文永の役)。

さらに、元は宋をほろぼした後、1281(弘安4)年に、再び日本に攻めてきました。しかし、幕府が海岸に築いた石の防壁や、御家人の活躍で、元軍は上陸できず、暴風雨にあって大きな損害を受け、引きあげました(弘安の役)。この二度の襲来(元寇)の後、元は日本への遠征を計画しましたが、実現されませんでした。

このように戦いはありましたが、元と日本との民間の貿易や文化の交流は行われていました。

幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

一方、鎌倉時代の終わりに全国で交通が活発になると、物資が集まる港や町を支配して豊かになる武士が現れました。経済が発展した近畿地方を中心に、荘園の領主や幕府の命令に従わず、武力を使って年貢をうろう武士も現れ、悪党と呼ばれました。

こうした中、後醍醐天皇は政治の実権を朝廷に取りもどすため、幕府をたおそうとしました。天皇は、一度は隠岐(島根県)に流されましたが、隠岐を脱出し、楠木正成などの新しく成長した武士や悪党、有力御家人の足利尊氏や新田義貞などを味方につけ、1333年に幕府をほろぼしました。

モンゴルの襲来が成功しなかった理由を、本文から二つめき出しましょう。

鎌倉時代後期の御家人と幕府との関係の変化を、次の使節を使って説明しましょう。(徳政令／北条氏)

⑦モンゴルの襲来
⑧元軍との戦い
⑨元軍の武器「つほう」
⑩鎌倉幕府の滅亡
⑪幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

⑫元軍の武器「つほう」
⑬鎌倉幕府の滅亡
⑭幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

⑮モンゴルの襲来
⑯元軍との戦い
⑰元軍の武器「つほう」
⑱鎌倉幕府の滅亡
⑲幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

⑳モンゴルの襲来
㉑元軍との戦い
㉒元軍の武器「つほう」
㉓鎌倉幕府の滅亡
㉔幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㉕モンゴルの襲来
㉖元軍との戦い
㉗元軍の武器「つほう」
㉘鎌倉幕府の滅亡
㉙幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㉚モンゴルの襲来
㉛元軍との戦い
㉜元軍の武器「つほう」
㉝鎌倉幕府の滅亡
㉞幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㉟モンゴルの襲来
㊱元軍との戦い
㊲元軍の武器「つほう」
㊳鎌倉幕府の滅亡
㊴幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㊵モンゴルの襲来
㊶元軍との戦い
㊷元軍の武器「つほう」
㊸鎌倉幕府の滅亡
㊹幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㊺モンゴルの襲来
㊻元軍との戦い
㊼元軍の武器「つほう」
㊽鎌倉幕府の滅亡
㊾幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

㊿モンゴルの襲来
㊽元軍との戦い
㊽元軍の武器「つほう」
㊽鎌倉幕府の滅亡
㊽幕府の政治を支えていた御家人は、領地の分割相続がくり返されることによって次第に土地が減り、生活が苦しくなっていました。なかには、借金を重ねて土地を手放す者も出てきました。幕府は、御家人の借金を取り消し、手放した土地を取り返させる徳政令を出して救おうとしたが、効果は一時的でした。さらに、幕府が元の襲来に備えるために北条氏の一帯に権力を集中させようになると、御家人の幕府に対する反感が強まりました。

学習指導要領-教科書-教師用指導書の関係③

【ポイント】教師用指導書は、時間配分や板書例、配当時間などを丁寧に記載

第1学年(105時間)				
月	時	地 理		歴 史
4月	6	持続可能な社会の実現に向けて (地理) 1 1編 1章 世界の姿 7 1編 2章 日本の姿 ★数学 6		
5月	12	2編 1章 世界各地の人々の生活と環境 10 ★理科		持続可能な社会の実現に向けて (歴史) 1 1章 歴史へのつら ① 4 ② ★技術 2 2章 古代までの日本 導入 1 ① (前半) 2
6月	12			
7月	6			
評価などの予備時間				2
9月	12			① (後半) ★国語・国語 3 ② 3 ③ ★国語 8 まとめ 2 地域の歴史を調べよう ★英語 6
10月	12	2編 2章 世界の諸地域 ① 7 ② ★理科 5 ③ 4 ④ 5		
11月	12			
12月	9			
評価などの予備時間				2
1月	9	⑤ 4 ⑥ 4		3章 中世の日本 導入 1 ① ★国語 5 ② 7 まとめ 2
2月	12			
3月	3			
評価などの予備時間				1
合計		地理 (53)	歴史 (47)	5
評価などの予備時間				5

2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開 (配当7時間)			
◆評価標準の例(節全体)		※は学習指導要領との関連	
指導目標	知識・技能	*	
・元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解させる。	○元寇(モンゴル帝国の襲来)などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。	B(2)	(ア)
・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる。	○南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。	B(2)	(イ)
・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。	○農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	B(2)	(イ)
・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	B(2)	(イ)
・ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。	○ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	B(2)	(イ)
	思考・判断・表現		
	主体的に学習に取り組む態度		

◆評価標準の例(各時間)

累計 (54時間)	主な学習内容	学習目標	評価標準の例
33	1 モンゴル帝国とユーラシア世界 (p.74～75) 遊牧民の生活 モンゴル帝国の拡大 ユーラシア世界の形成	・モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を、大陸の結び付きに着目して考察し、表現する。	●モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を、大陸の一体化とその影響に関連付けて考察し、表現している。(思判表)
34	2 モンゴルの襲来 (p.76～77) 二度の襲来 鎌倉幕府の滅亡	・モンゴルの襲来と日本への影響について、主従関係に着目して考察し、表現する。	●モンゴルの襲来と日本への影響について、御家人の動きと関連付けて考察し、表現している。(思判表)
35	3 南北朝の動乱と室町幕府 (p.78～79) 南北朝二つの朝廷 守護大名と地方の動き 室町幕府の支配の確立	・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。 ・室町幕府の特徴を鎌倉幕府の仕組みと比較して考察し、表現する。	●守護が新たな権限を与えられて守護大名となり、後の政治に影響を及ぼしたことを理解している。(知授) ●建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を考察し、表現している。(思判表)

・年間を通じた配当時間、各単元や教科書のページごとの時間などを丁寧に記載

学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	①【説明】資料①を提示し、フビライの要求内容を説明する。	●資料①を活用し、北条時宗の対応について説明する。
2 学習課題 (10分)	②【作業】資料②から、元軍と御家人の戦い方の違いを読み取らせる。	●服装や武器、戦法の違いに着目させる。
3 二重の襲来 (10分)	③【説明】資料③から、元軍が2度に渡って襲来してきたことや幕府が防壁を築いて上陸を防ごうとしたことを説明する。	●防壁の高さや造られた距離に着目させ、防壁が築かれた場所に元軍が上陸できなかったことに気付かせる。
4 鎌倉幕府の滅亡 (30分)	④【発問】資料④などから、幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来や社会の変化から考えさせる。 ⑤【話し合い】【作業】(※)の問いに答えさせ、幕府が滅亡した原因について、グループで話し合い(くらげチャート)を作成させる。 ⑥【発表】グループごとに作成した「くらげチャート」を提示しながら発表させる。	●御家人の生活が脅かされていたことに気付かせる。 ●「くらげチャート」については、教科書p.60～61を参考にさせる。 ●幕府に不満を持つ人々の存在に気付かせる。
5 学習のまとめ (5分)	⑦【作業】⑤⑥の問いに答えさせる。	

・授業内の時間配分や板書例を記載

2. モンゴルの襲来と日本

モンゴルの襲来はどのようなもので、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

(二重の襲来)…元寇

元のねらい=日本の征服 ← 執権北条時宗 無視
元軍の攻撃 集団戦法 火薬を使った武器
1274年 文永の役 元と高麗の対立 失敗
1281年 弘安の役 防壁や御家人の活躍 暴風雨 失敗

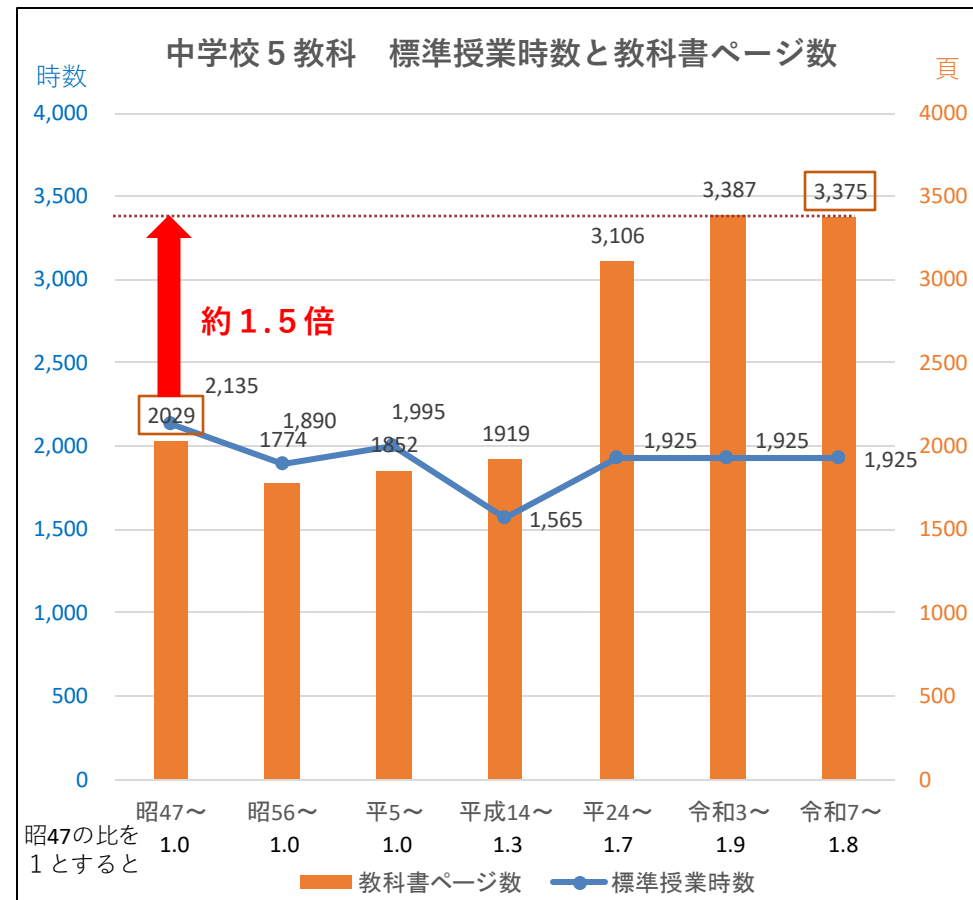
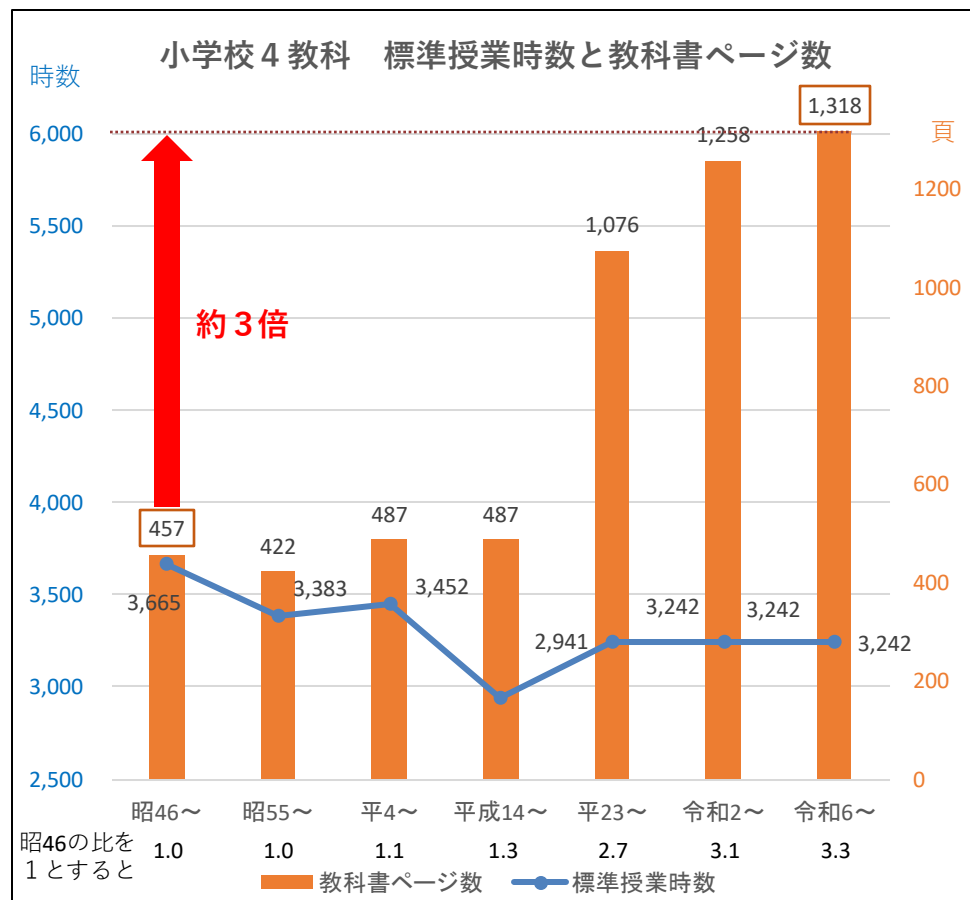
なぜ鎌倉幕府は倒れたのか？
例：モンゴルの襲来で食糧が不足し、密着が不十分で、分断相対で領地が小さくなっていった御家人たちは、権力が集中する北条氏一族に反感を持つようになっていったから。

領地の分断相対で生活が苦しくなった。
御家令を出したが失敗した。
北条氏一族に権力が集中した。
幕府の命令に反発し、密着の出現。
後醍醐天皇による倒幕の計画。

教科書のページ数の推移（小学校・中学校）

約 50 年前と比較し、小学校 4 教科・中学校 5 教科の

- ◆ **標準授業時数は減少**しているものの、
- ◆ 教科書ページ数（A 5 換算）は**小学校で約 3 倍、中学校で約 1.5 倍に増加**。



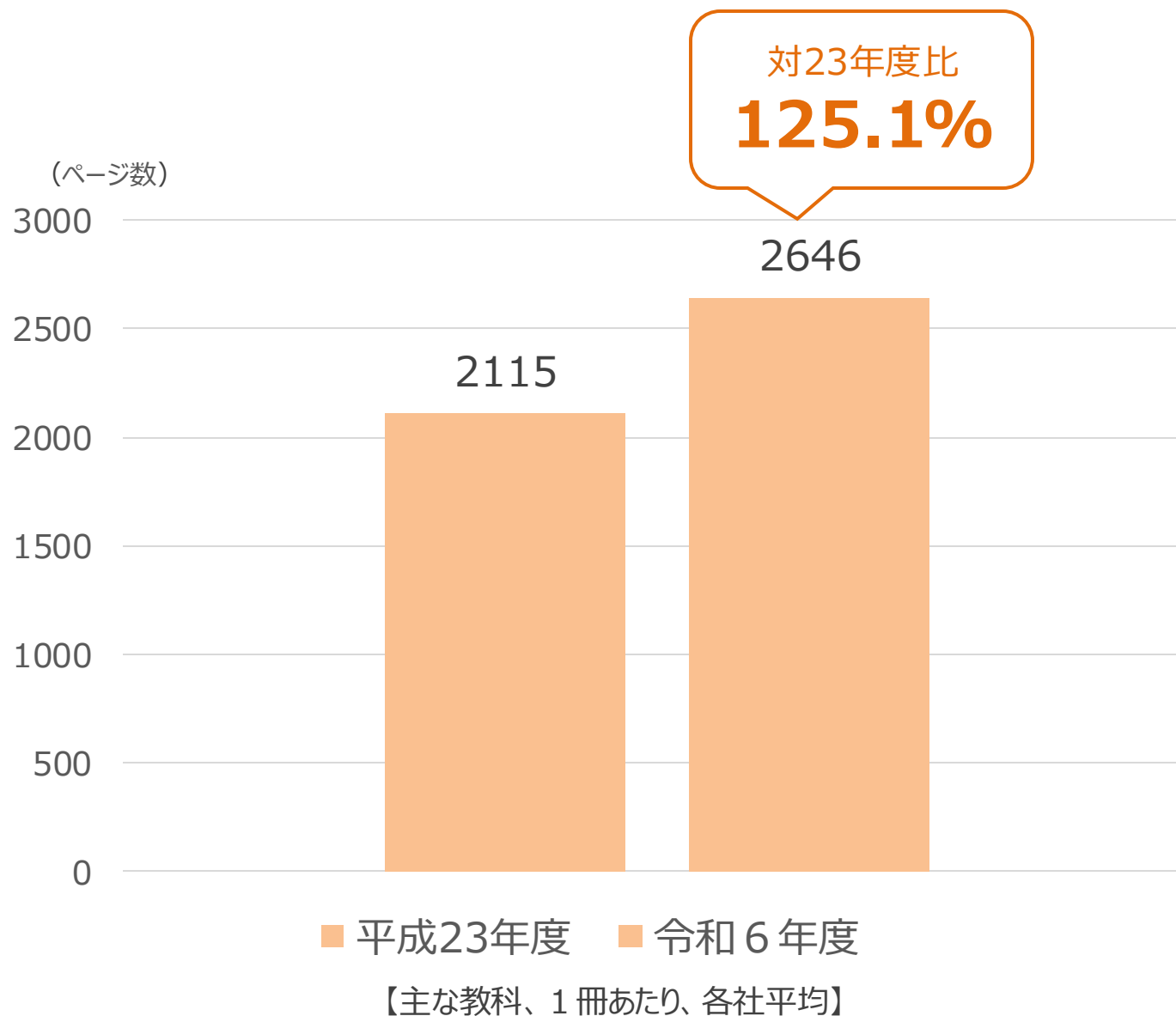
※小学校 4 教科：国語・社会・算数・理科、中学校 5 教科：国語・社会・数学・理科・外国語

※教科書ページ数は、各教科の教科書の平均ページ数を足上げたものであり、A 5 換算。

※A 5 換算ページ数は、A 5 判との面積比を踏まえ、B 5 判は 1.5 倍、A B 判は 1.7 4 倍、A 4 判は 2.0 1 倍して算出。

※平成 4 年の生活科創設に伴い小学校 1、2 年生の社会と理科がなくなったため、標準授業時数・教科書ページ数ともに社会と理科は小学校 3～6 年生の数値としている。

教科書のページ数の推移（高等学校）



教科書の分量や教科書観に関する指摘

1. 今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理（令和6年9月）

（2）教科書・教材の在り方

- 発展的内容の充実や、新しい学習指導要領への対応などにより教科書の内容は格段に充実し、ページ数が大幅に増えている現状。
- 入試の在り方に関連し、教科書の内容を全て教えずにはいけないという考え方は依然として根強く、教科書のページ数の多さが、授業進捗の速さや教育課程の実施に当たっての負担感を生んでいる実態も指摘されている。
- 教科書が経験の浅い教師でも充実した指導ができるように工夫されていることが、かえって教師の創意工夫や教師の指導力向上を阻んでいるのではないかと、といった指摘もある。校内の研修や教育委員会の支援等を通じて、単に教科書を教えるのではなく、どのような資質・能力を育みたいかという視点から、一人一人の教師が教育計画を立てられるようにしていくことが重要。

2. デジタル教科書推進ワーキンググループ中間まとめ（令和7年2月）抜粋

（中略）

さらに、教科書自体の内容や分量が大幅に増加している中、教育現場では教科書の内容を網羅的に教えずにはならないという考え方が依然として根強く、負担感を生んでいる実態も指摘されているところである。1人1台端末の整備により子供たちが多様な学習材に自らアクセスできるようになってきたという状況の変化も踏まえれば、紙の教科書やデジタル教科書に加えて多様な教材を活用して個別最適な学びと協働的な学びを深めることが求められており、教科書を網羅的に教えることに縛られるのではなく、教科書に加えて学習場面に応じて適切な学習材を選択して使用するという意識の改革に向けた取組を行うとともに、次期学習指導要領の検討を踏まえつつ、教科書においては多様な学習材を組み合わせやすくする連携性の向上や内容・分量の精選を行うことが望ましい。

例えば、次期学習指導要領に向けた中央教育審議会への諮問等において問題意識が示されているように、生成 AI 等が発展する中、個別の知識の集積に止まらない概念としての習得や深い意味理解を促す指導が重要となっており、学びに有益な情報を教科書において網羅するのではなく、教科書は教科等の主要な概念に関する理解をつかみやすいものとしつつ、教科書で得た理解をさらに広げたり深めたりしていくための多様な情報を得る手段として教材を活用していくといった役割分担が考えられる。こうした観点から教科書の内容・構成の見直しを行っていくとすれば、必然的に教科書の記述の精選が必要となると考えられる。また、こうしたことを検討していく上では、次期学習指導要領の検討において、各学校における柔軟な教育課程の編成の在り方についても検討課題となっていることにも留意する必要がある。

「教科書通りに教える」が 興味関心に応じた授業、答えのない課題に取り組む授業より多い

Q. あなた（教師）は教科の授業において、次のような内容の授業をどれくらい行っていますか



【出所】ベネッセ教育総合研究所「小中高校の学習指導に関する調査2023」

※質問項目は、2021年に、わかりやすさを考慮し、比較できる範囲内で文言の変更を行っている。数字は「よく行っている」+「ときどき行っている」の%。

※「児童・生徒が興味・関心に合った内容を自分で選んで学習する」「明らかな解決法が存在しない課題に取り組む」「批判的に考える必要がある課題に取り組む」は2020年～2022年は尋ねていない。

高校入試では、事實的知識の記憶を問う問題が引き続き出題されるとともに、思考力・判断力・表現力を問う問題も出ている

2 次の年表は、日本の交通に関することがらについてまとめたものです。あとの1～6に答えなさい。

時代	日本の交通に関することがら
平安時代	①平安京と地方を結ぶ道路を通して調・庸が運搬された。
鎌倉時代	鎌倉幕府によって、②鎌倉と京都を結ぶ道路が整備された。
室町時代	馬借とよばれる運送業者が、年貢などの物資を運搬した。
安土桃山時代	③織田信長によって、各地の関所が廃止された。
江戸時代	江戸幕府によって、④五街道が整備された。
明治時代	新橋・横浜間に⑤鉄道が開通した。

1 下線部①に関して、794年に都が平安京とされました。このときの天皇は誰ですか。次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 天武天皇 イ 聖武天皇 ウ 桓武天皇 エ 後醍醐天皇

(中略)

5 下線部⑤に関して、右の資料Ⅱは、明治時代に整備された鉄道の路線の一部を示しています。資料Ⅱ中の「1884年以降に開通した鉄道の路線」が整備されたことによって、資料Ⅱに示した群馬県の五つの都市から横浜までの区間が鉄道でつながるようになりました。この区間が鉄道でつながるようにしたのはなぜだと考えられますか。その主な理由を、資料Ⅱに示した群馬県の五つの都市で当時共通して盛んだった産業と、当時の輸出の特徴とに触れて、簡潔に書きなさい。



- 人物名等の事實的な知識に関する記憶を、他の知識とのつながり等の文脈がない中で問う出題は、教科書に記載のある個々の用語を網羅的に取り扱うような授業の在り方を助長する側面がないか。
- こうした単純な記憶への対応も求めつつ、思考力・判断力・表現力を問うことについて、生徒の学習負担の増加などの観点からどのように考えるか。
- これらの視点も踏まえつつ、中学校における授業改善に繋がりつつ、生徒に過度な学習負担を生じさせない高校入試の出題の在り方についてどう考えるか。

特定の年代に対応した人物名の記憶を問う問題

+

明治時代に我が国の産業革命として繊維産業が盛んとなったことを踏まえ、それらを主要な輸出品とすることで近代産業が発展していったという主要な理解を問い、表現させる問題

知識に関する設問であっても、単なる記憶を問うのではなく 概念としての理解を問う問題も考えられる（高校入試）

② 次のA～Eは、それぞれ日本の法に関わることがらについて述べた文です。あとの1～6に答えなさい。

- A 大宝律令が定められ、律令に基づいて政治を行う律令国家となった。
- B 執権北条泰時により、武士の社会の慣習に基づいて、御成敗式目が定められた。
- C 戦国大名によって、領国を支配するために分国法が定められることがあった。
- D 武家諸法度が定められ、幕府に無断で大名家どうしが結婚することなどが禁じられた。
- E 明治政府によって、国の仕組みの整備が進められるなか、大日本帝国憲法が発布された。

基本的な事実的知識については、問題のリード文の中で材料として提供

6 次のa～eのうち、主君が家臣に土地の支配を認めることによって、家臣が主君に従う関係で成り立っていた社会はどれですか。下のア～エの組み合わせの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

- a 律令国家によって政治が行われていた社会
- b 鎌倉幕府によって政治が行われていた社会
- c 戦国大名によって政治が行われていた社会
- d 江戸幕府によって政治が行われていた社会
- e 明治政府によって政治が行われていた社会

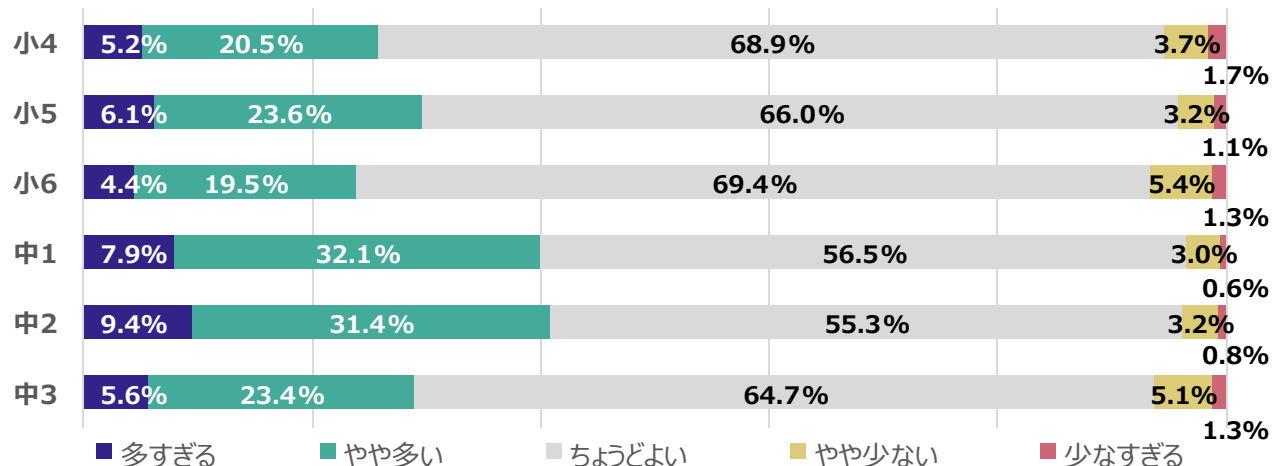
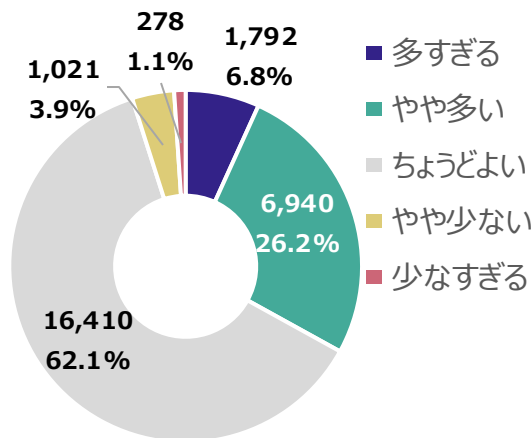
ア a・b・c イ b・c・d ウ b・c・e エ c・d・e

事実的知識の記憶を問うのではなく、各時代の政治体制に関する本質的な理解を問う

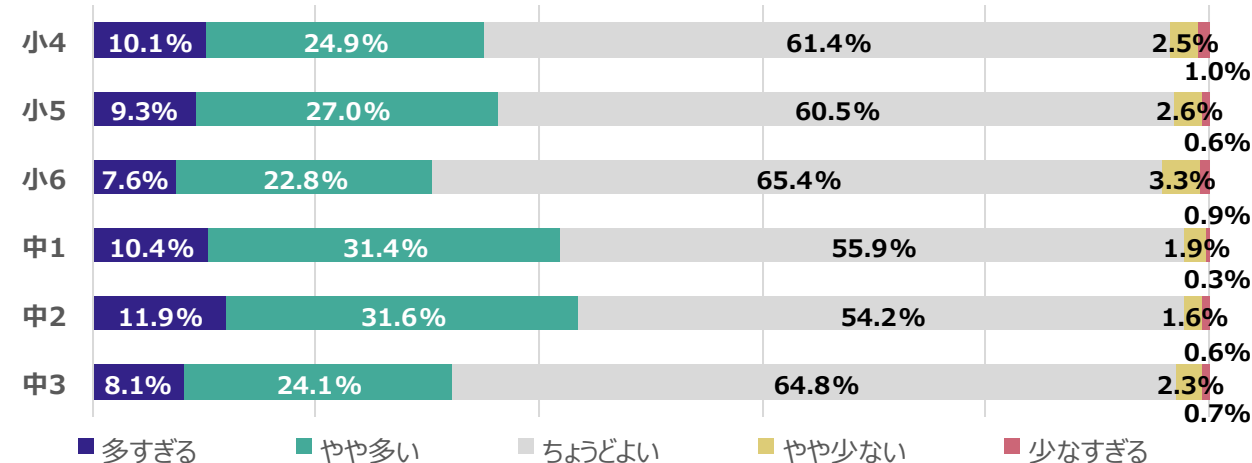
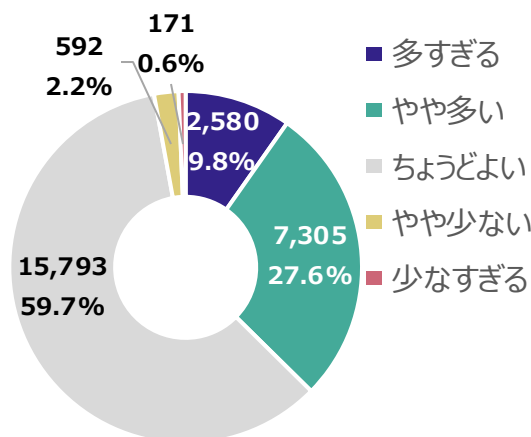
- ◆ 児童生徒の約60%が、授業で学ぶ量や週当たり授業時数を「ちょうどよい」と感じている。
- ◆ 一方、「多すぎる」と感じる子も5～10%程度存在（中1、中2で特に多い）

問 あなたが、普段学校で受けている授業で学ぶ量や授業時間について、どう思いますか。

① 授業で学ぶ量



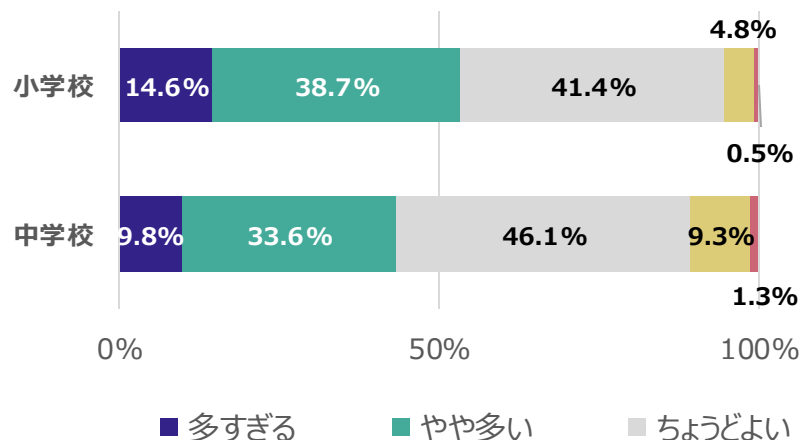
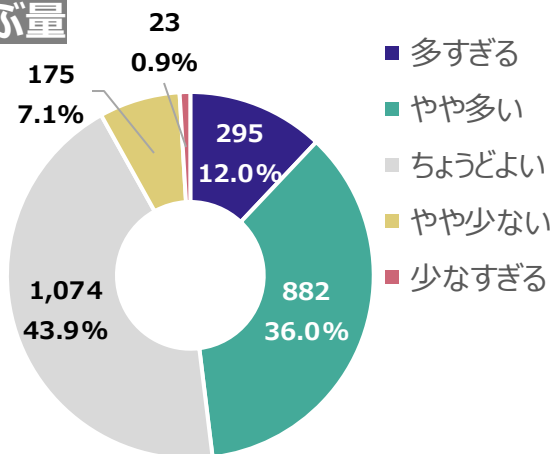
② 週当たりの授業時間



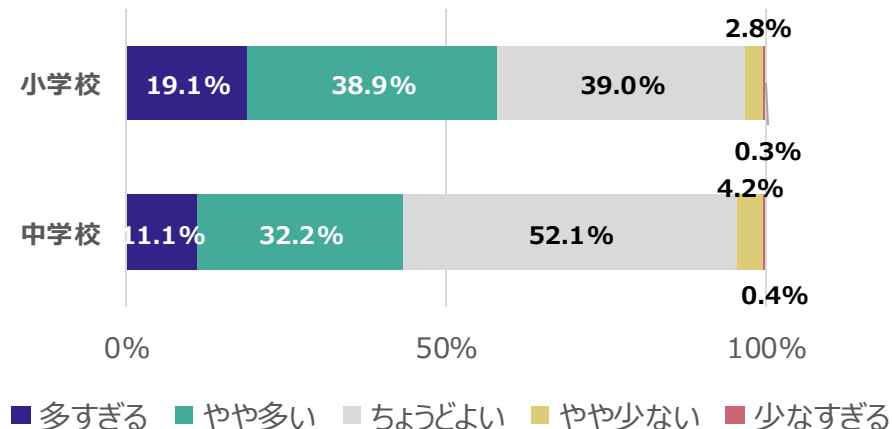
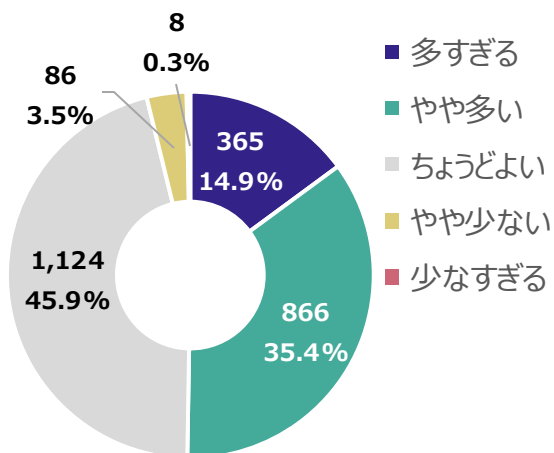
◆ 教師向け調査では、約4～5割の教師が「ちょうどよい」と回答している一方で、「多すぎる」または「やや多い」と回答した教師は、小学校で半数以上、中学校で4割以上であった。

問 あなたは、学校における子供たちの学習量、授業時間についてどう思いますか。

① 授業で学ぶ量



② 週当たりの授業時間



現行制度での教育課程編成の工夫事例①

神奈川県横浜市立つつきの丘小学校

- 週当たり授業時数：実質**28コマ**（1260分）
- 各教科等の総授業時数：**1017単位時間**（R7計画）
- 時間外在校等時間：**18時間22分**（R6月平均）

【教育課程の編成の考え方】※R7計画

- ※ 総授業日数 **204日**（夏季休業期間：7月22日～8月26日）
- ※ 児童会活動・クラブ活動・学校行事の時数の合計：55単位時間
（うち学校行事は18単位時間）
- ※ 週時程踏まえた最大の授業時数：1120単位時間

（4～6年の場合）

	月	火	水	木	金
8:15	登校・朝の会				
8:30	1限（40分）				
	～				
	5限（40分）				
12:25	給食				
13:10	昼休み			清掃	昼休み
13:25	清掃		6限（40分） ～14:05		清掃
13:35	6限（60分）	6限（60分）		6限（60分）	6限（40分） ～14:15
14:35					



授業の1単位時間を基本的に40分で設定し、午前中に5限目まで実施



授業の1単位時間を基本的に40分で設定し、午前中に5限目まで実施

40分では時間が足りない学習活動を実施するため、週3回60分の授業日を設定

現行制度での教育課程編成の工夫事例②

新潟県新潟市立上所小学校

- 週当たり授業時数： **27コマ+モジュール**
- 各教科等の総授業時数： **1035単位時間** (R7計画)
- 時間外在校等時間： **17.0時間** (R6月平均)

【教育課程の編成の考え方】 ※R7計画・小学5年

※ 総授業日数 **205日** (夏季休業期間：7月24日～8月24日)

※ 児童会活動・クラブ活動・学校行事の時数の合計：64単位時間
(うち学校行事は27単位時間)

※ 週時程踏まえた最大の授業時数：1151単位時間

	月	火	水	木	金
	登校				
8:15	朝学習（モジュール）等 15分				
	朝の会				
8:30	1限（45分）				
8:40	～				
	4限（45分）				
12:10	給食				
12:55	昼休み	帰りの会 ～13:20	昼休み		
13:25	清掃	下校13:30	清掃	5限	
13:45	5限	学校開放 13:20～15:00	5限	6限	
	6限		帰りの会 ～14:45	帰りの会 ～15:10	
15:20	帰りの会 15:20～15:30	水曜日の放課後は 児童についての情報共有や 教材研究の時間として活用		委員会 or クラブ活動 14:50～15:35	下校 15:20

現行制度での教育課程編成の工夫事例③

岐阜県下呂市立下呂中学校

- 週当たり授業時数： **29コマ**
- 各教科等の総授業時数： **1015単位時間** (R7計画)
- 時間外在校等時間： **26.48時間** (R6月平均)

【教育課程の編成の考え方】 ※R7計画・中学2年
 ※ 総授業日数 **208日** (夏季休業期間：7月21日～8月25日)
 (自然災害が起きやすい地域のため欠課が多く生じうることを踏まえ、授業日数を多く設定)
 ※ 学校行事・生徒会活動の合計時数：33単位時間
 (うち学校行事：24単位時間)
 ※ 週時程踏まえた最大の授業時数：1090単位時間
 ※ 計画時点では教科等の時数は1015単位時間で設定し、学習状況等を踏まえながら年度途中のカリキュラム・マネジメントを実施し、必要に応じて時数を追加して授業を実施。

	月	火	水	木	金
8:05	登校・朝の会				
8:25	1限（50分）				
	～				
	4限（50分）				
12:20	給食・昼休み				
13:15	5限（50分）				
14:15	6限	終わりの会 14:10～14:25	6限	6限	終わりの会 14:10～14:25
	終わりの会 15:10～15:25	掃除 14:30～14:45	終わりの会 15:10～15:25	終わりの会 15:10～15:25	掃除 14:30～14:45
	掃除 15:30～15:45	部活動 14:55～16:30	7限 15:35～16:25	部活動 15:35～16:30	部活動 14:55～16:30
	生徒会 15:55～16:30				
	16:45 下校				



午後は主に総合的な学習の時間
や学級活動を実施
（部活動を終えた3年生については、火・金の6限を教科に充てる場合もあり）



午後は主に総合的な学習の時間
や学級活動を実施
 (部活動を終えた3年生については、火・金の6
限を教科に充てる場合もあり)



部活動を実施しても16:45最終下校
 ※市教委と市内中学校校長会・教頭会が
連携・決定

新年度の始業日設定の工夫事例

年度はじめの1学期の始業日について、数日間、授業開始日を後ろ倒しにすることにより、異動してきた教師や新規採用教師をはじめ、教師の余白を生み出す取組が出てきている。

石川県加賀市

Before

- 学校管理規則に基づき、年度の始業日を4月6日としていたところ、4月1日～5日の間に土日が含まれる場合、**3営業日しか新年度の準備期間がとれず、教職員の負担が課題**となっていた。

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9

3日間 始業日

After

- 学校管理規則を改正し、始業日を8日に設定することで、始業までに土日が含まれていたとしても、**最低でも5日間の準備期間**を確保できるように。

※ 授業日数を減じても教育課程の実施に大きな影響が無いことを確認し、授業日数の工夫により実施。

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9

10 始業日 どんな暦でも5日間は確保可能

熊本県熊本市

Before

- 年度始めの教職員の多忙感・負担が課題となっていたところ、教育委員会で「教育課程検討会議」を設置し、教育委員会と学校関係者、保護者を交え、**予備時数の削減、行事の精選を併せて検討しながら、始業日の設定の在り方について検討**。

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

5日間 始業日

After

- 各学校が次年度の行事予定を決定する前に、学校管理規則を改正し、始業日を1日後ろ倒しし、**最低でも5日間、最長6日間確保**。

始業日 : 1日後ろ倒し（新年度の準備）

冬季休業日 : 2日延長（受験事務多忙化の緩和）

※授業日数に影響が出ないよう、夏季休業を3日短縮

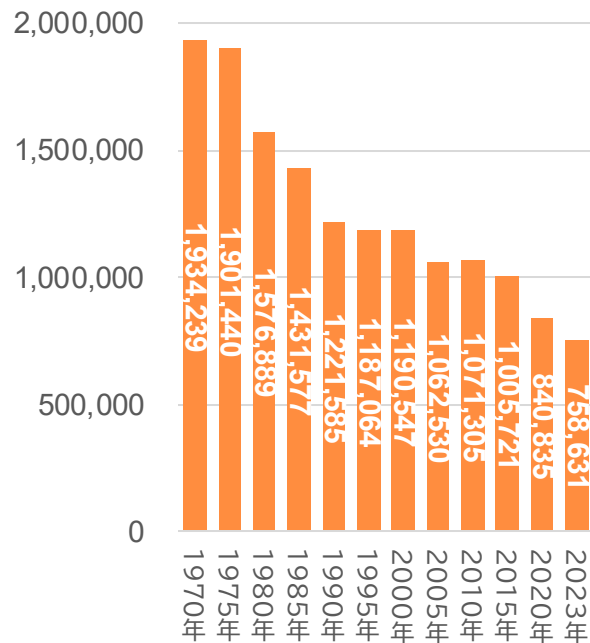
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

最低5日、最長6日間 始業日

大学全入時代が到来 公立高入試も倍率低下

出生数

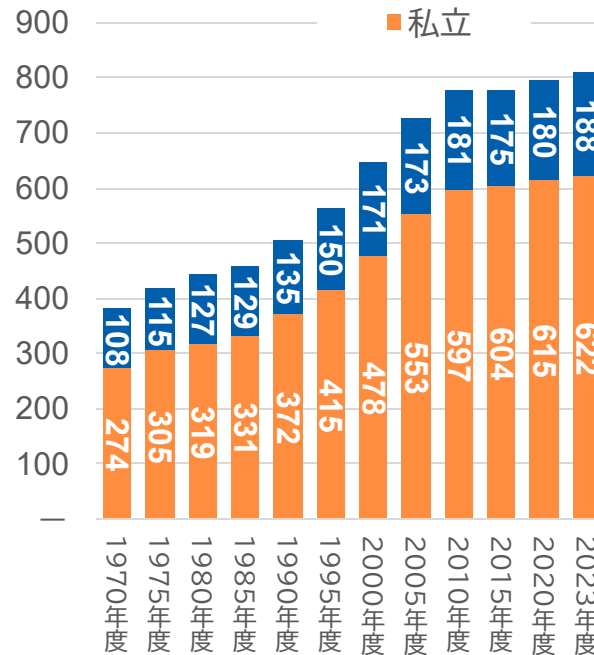
約50年で4割以下



出典) 厚労省「人口動態調査」

大学数

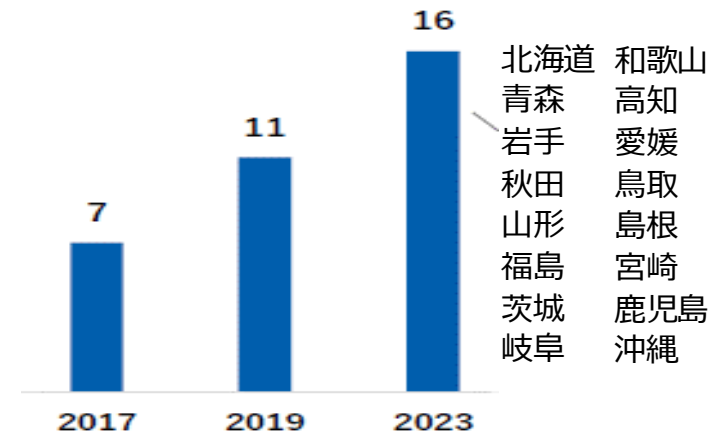
約50年で2倍以上



出典) 文科省「学校基本調査」

高校入試(公立)

倍率1以下の県3分の1



北海道
青森
岩手
秋田
山形
福島
茨城
岐阜
和歌山
高知
愛媛
鳥取
島根
宮崎
鹿児島
沖縄

公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律 (令和7年法律第68号)

附則

(政府の措置)

第三条 政府は、令和十一年度までに、公立の義務教育諸学校等（給特法第二条第一項に規定する義務教育諸学校等をいう。以下同じ。）の教育職員（第一条の規定（給特法第二条第二項の改正規定に限る。）による改正後の給特法第二条第二項に規定する教育職員をいう。以下この項及び附則第五条において同じ。）について、一箇月時間外在校等 時間を平均三十時間程度に削減することを目標とし、次に掲げる措置を講ずるものとする。

- 一 公立の義務教育諸学校等の教育職員一人当たりの担当する授業時数を削減すること。
- 二 教育課程の編成の在り方について検討を行うこと。
- 三 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に規定する教職員定数の標準を改定すること。
- 四 公立の義務教育諸学校等の教育職員以外の学校の教育活動を支援する人材を増員すること。
- 五 不当な要求等を行う保護者等への対応について支援を行うこと。
- 六 部活動の地域における展開等を円滑に進めるための財政的な援助を行うこと。
- 七 前各号に掲げるもののほか、公立の義務教育諸学校等の教育職員の業務の量の削減 のために必要な措置

2 (略)

学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）

第九十条 高等学校の入学は、第七十八条の規定により送付された調査書その他必要な書類、選抜のための学力検査（以下この条において「学力検査」という。）の成績等を資料として行う入学者の選抜に基づいて、校長が許可する。

2 学力検査は、特別の事情のあるときは、行わないことができる。

3 調査書は、特別の事情のあるときは、入学者の選抜のための資料としないことができる。

4 連携型高等学校における入学者の選抜は、第七十五条第一項の規定により編成する教育課程に係る連携型中学校の生徒については、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができる。

5 公立の高等学校（公立大学法人の設置する高等学校を除く。）に係る学力検査は、当該高等学校を設置する都道府県又は市町村の教育委員会が行う。



第六章 豊かな学びに繋がる学習評価の在り方

(論点整理 P70～78関係)

学習評価に係る様々な用語

学習改善等につなげる評価（いわゆる「形成的評価」）

- ・学習過程の途中で、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて評価するもので、その後の児童生徒の学習の改善や教師による指導の改善に生かす目的で行う。小テスト、レポートやプロジェクトの途中経過、日々の記録などを活用する。

記録に残す評価（いわゆる「総括的評価」）

- ・学習活動が完了した後に実施される評価で、最終的な成果を評価するために用いる。テストや試験、最終レポート、プロジェクトの完成版などを活用し、学習者の全体的な理解度や達成度を判断する。

目標に準拠した評価（いわゆる「絶対評価」）

- ・児童生徒の学習状況を、学習指導要領に定める目標に照らしてその実現状況を評価するもの。

集団に準拠した評価（いわゆる「相対評価」）

- ・児童生徒の学習状況を、学級・学年など集団の中での相対的な位置づけによって評価するもの。

個人内評価

- ・児童生徒の学習状況を、個人のよい点や可能性、進歩の状況等に着目して評価するもの。

評価の「規準」（いわゆる「のりじゅん」）

- ・学習指導要領に示す資質・能力が身についた際の姿を、具体的な児童生徒の姿として設定したもの。文部科学省が評価の「キジュン」の語を使用する場合、こちらの漢字を用いる。（観点別評価で言えば、Bとなる水準を示すもの）

評価の「基準」（いわゆる「もとじゅん」）

- ・学校現場において、資質・能力の習得状況の程度を、評価の規準に照らしたより具体的な判断基準を示す場合、こちらの漢字が一般的に用いられる。（この課題で○○ならA、▲▲ならBなど、××ならCなど）

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知） 抜粋

小学校児童指導要録（参考様式）

各教科の学習の記録									特別の教科 道徳								
教科	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子							
国語	知識・技能								1								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								2								
社会	知識・技能								3								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								4								
算数	知識・技能								5								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								6								
理科	知識・技能								学年	外国語活動の記録							
	思考・判断・表現							知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定							3									
生活	知識・技能								4								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								総合的な学習の時間の記録								
音楽	知識・技能								学年	学 習 活 動	観 点	評 価					
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								3								
図画工作	知識・技能								4								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								5								
家庭	知識・技能								6								
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定																
体育	知識・技能								特別活動の記録								
	思考・判断・表現								内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6
	主体的に学習に取り組む態度								学級活動								
	評定																
外国語	知識・技能								児童会活動								
	思考・判断・表現								クラブ活動								
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定								学校行事								

〔別紙1〕小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

(1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（中略）小学部における観点別学習状況については、小学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校小学部における各教科の評価の観点について、設置者は、小学校学習指導要領等を踏まえ、別紙4を参考に設定する。

(2) 評定

小学校及び特別支援学校小学部における評定については、第3学年以上の各学年の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

各観点の評価方法等についての留意点として示している事項

知識・技能

- 「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものである。
- （中略）具体的な評価方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

思考・判断・表現

- 「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するものである。
- （中略）具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

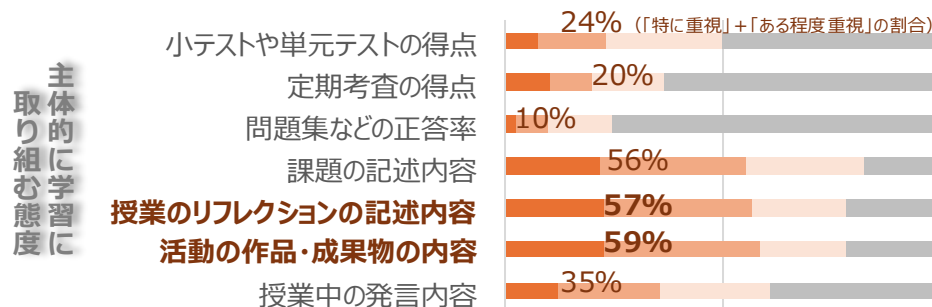
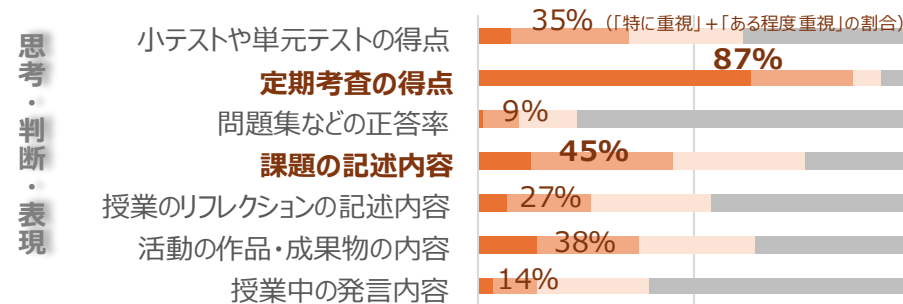
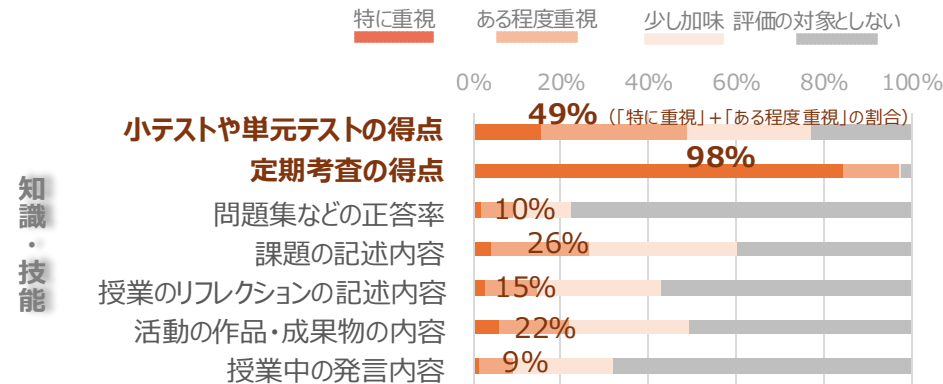
主体的に学習に取り組む態度

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価することではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。
- （中略）「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。したがって、例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではないことに留意する必要がある。
- （中略）それぞれの観点別学習状況の評価を行っていく上では、児童生徒の学習状況を適切に評価することができるよう授業デザインを考えていくことは不可欠である。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要である。

学習評価に関する各種調査結果

◆最終評価時に重視する項目（高校）第一学習社アンケート結果より

- 「知識・技能」と同様「思考・判断・表現」でも定期考査の得点を重視
- 「主体的に学習に取り組む態度」では「授業のリフレクションの記述内容」「活動の作品・成果物の作品」といった振り返りや内容を重視



（出典）第一学習社「観点別評価に関するアンケート報告書」2023年2～3月調査実施を基に文部科学省作成

◆形成的評価に係る状況（中学）広島県立教育センター調査結果より

- 単元の途中で評価を実施する割合は多いが、その評価結果を自身の指導や児童生徒の学習に生かす教師の割合は少ない

学習指導要領に基づき、自分で（あるいは教科会で）評価基準を設定する

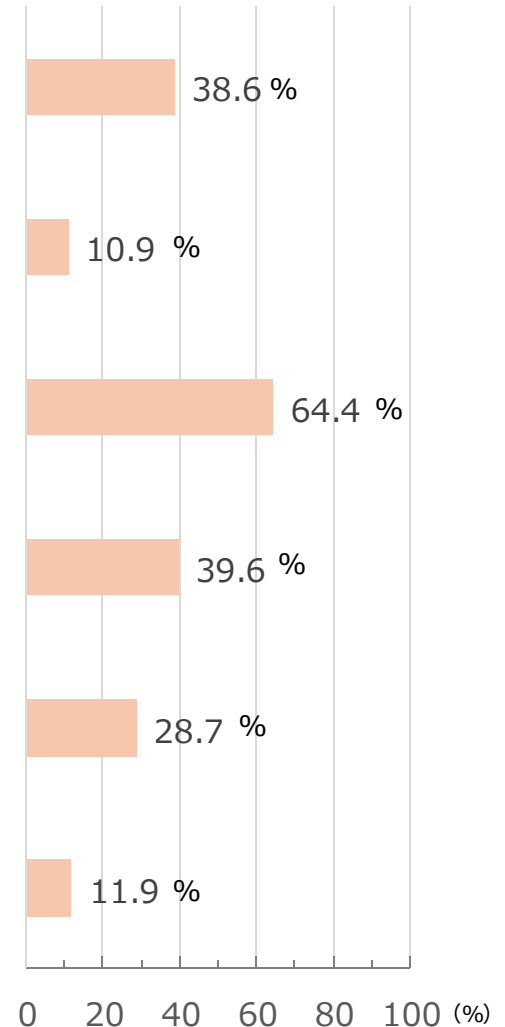
単元の始めと途中と終わりにおいて評価基準を確認する

単元の途中で評価を実施する

単元途中の評価を自身の指導改善に生かす

単元途中の評価の結果から生徒に今後の学習の進め方について助言する

単元途中も評価の結果から生徒に今後の学習の進め方について考えさせる



（出典）広島県立教育センター「授業改善につなぐ学習評価の在り方に関する研究（中学校）-形成的評価の実践上の課題に着目して-」2022年度を基に文部科学省作成

学習評価に係る教員の意見

- ・ 民間や自治体が実施した調査では、評価の煩雑さに伴う時間不足、評価材料の収集、趣旨に沿った運用に係る課題が確認できる
- ・ 課題に対して評価計画や項目の策定・整理、評価の場の設定、評価を基に学びを振り返る等の工夫が見られる

◆ 現在感じている課題

評価の煩雑さ・時間不足

- ・ 定期テストや単元テストなどで判断することは難しい。そのため、日々の評価のための記録が必要で時間と労力がかかる（*）
- ・ 生徒一人一人に対して3観点の評価を行うためには時間もスキルも足りない。結果的に、見てすぐにわかるようなものの評価にならざるを得ない

適切な評価材料の収集が困難

- ・ 授業内のどのような場面で、また、テストなどでどのように生徒の主体的に学習に取り組む態度を見取れば良いのか、自分の中でクリアでない（*）
- ・ 知識・理解、思考力・表現力・判断力、主体性のABCの付け方、材料の選択に一部（特に主体性）苦慮した

趣旨に沿った運用が困難

- ・ 年度の最後に評定に合わせて主観的につけたもの（評定5であればAAA）や、主体的に学習に取り組む態度では、提出物が出ていればAのように、導入目的を果たしていない
- ・ 本来であれば形成的評価に活用すべきだが、本校では学期末にしか観点別評価を行っていないため、評価を受けて学習評価を図るという本来の目的を果たしていない
- ・ 手間のわりに生徒に還元できていない

◆ 課題を元に取り組んでいる工夫

評価計画や項目の整理

- ・ 章のまとめりととの評価と毎時間の活動をリンクさせる
- ・ 課題や試験の設問ごとに観点別に分類、生徒へどれが何の力を問うているのか理解しやすく工夫して提示

パフォーマンス課題など評価の場の設定

- ・ ある授業で毎時間「問い」作りを行う。「問い」の内容・レベルをルーブリックを用いて評価し客観性を担保する
- ・ 学期に一回知識を得た内容の実験を自身で考えて実施する

評価を基に学びを改善する機会の設定

- ・ 1つの節の中で「できたこと→なぜ？→今後どのようにいかにするか」「できなかったこと→原因→改善点」など振り返りをさせて次につながるような取組を行った（*）
- ・ 振返りの機会を適切に設け、学習改善に資する評価となるよう意識

形成的評価と総括的評価が区別されず、毎時評価が行われる例

1 単元名 「分数のたし算とひき算」

2 単元の目標

- 約分・通分の意味、異分母分数の大小比較の仕方や、異分母分数の加法及び減法の意味や計算の仕方を理解し、約分や通分、異分母分数の加法及び減法の計算ができる。
- 異分母分数の大小比較の方法を考えたり、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を、図や式を用いて考えたりする力を養う。
- 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことなどをもとにして、異分母の分数の加法及び減法の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に検討したりしようとしている。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
約分・通分の意味、異分母分数の大小比較のしかたを理解し、同値分数をつくり、異分母分数の大小比較ができる。また、異分母分数の加法及び減法の意味や計算の仕方を理解し、異分母分数の加法及び減法の計算ができる。	異分母分数の大小比較の方法を、分母を同じにすればよいと考えている。また、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を、図表現や数表現を用いて、分母を同じにすればできると考えている。	異分母で同じ大きさの分数があることに気づき、異分母分数の大小比較について考えようとしている。また、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を多面的に振り返っている。

5 単元の指導計画

時	学習内容	評価		
		知	思	主
1	・同分母分数および同分子分数の大小を比較する。	○	○	
2 (時)	・異分母分数の大小比較について考える。	○	○	
3	・いろいろな分数を通分して、大小を比較する。	○		○
4	・約分について知り、いろいろな分数を約分する。	○		○
5	・異分母分数の加法の計算のしかたを考える。		○	○
6	・くり上がりのある異分母分数の加法や、帯分数の混ざった異分母分数の加法の計算のしかたを考える。	○		
7	・異分母分数の減法の計算のしかたを考える。		○	○
8	・くり上がりのある異分母分数の減法や、帯分数の混ざった異分母分数の減法の計算のしかたを考える。	○		
9	・加法と減法の混ざった異分母分数の計算を行う。	○		○
10	・既習事項の確かめをする。			

・毎時間複数観点の評価を行うこととなっており、また学習の途中で「学習改善等に生かす評価」と評定のため「記録に残す評価」が区別されずに行われている。

真に意味のある評価活動へ集中し、評価場面を精選する例

単元計画の重点化を意識した例

学習活動・学習課題 (丸付き数字は授業時数)	学習評価	
	つまずきと支援 (指導に生かす評価)	総括に用いる評価 (記録に残す評価)
①「走り幅跳びの代表選手を選ぼう」という課題を知って、学習計画を立てる	単元の課題を最初に明示！	
②いろいろな場面での平均値の求め方を考える	発言内容 (知)、活動の様子 (態)	
③平均を工夫して求める方法を考え、説明する		
④いくつかの部分の平均を知り、全体の平均を求めることができる		ワークシート (知)
⑤⑥平均の考えを用いることのよさがわかり、自分の歩幅を求めて道のりを概測することができる	発言内容 (思)	
⑦飛び離れた記録 (外れ値) がある場合の平均の求め方を理解する		
⑧「走り幅跳びの代表選手を選ぶ」という課題を設定し、求め方を説明する	学びの舞台！	ワークシート (思)

※単元計画の「重点化」が弱いと、評価場面は拡散して記録の回数も多くなりがちです

- ・単元の中で最も資質・能力を発揮しやすい場面を設定し、その中で重点的に評価。
- ・それ以外の場面においては、学習評価は子供達のつまずきの把握と支援に活かすための「学習改善等に生かす評価」を行い、その場面も精選。

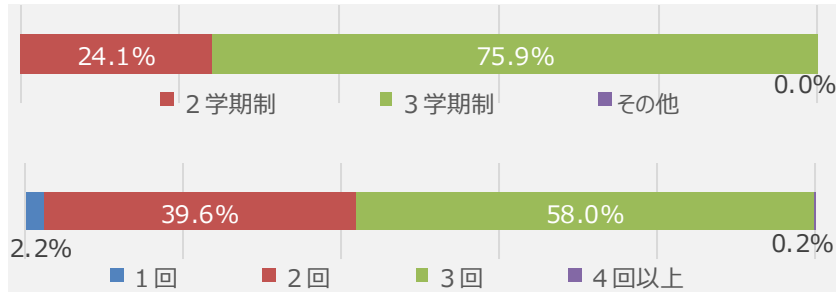
単元計画の重点化の意識が弱い例

学習活動・学習課題 (丸付き数字は授業時数)	学習評価	
	つまずきと支援 (指導に生かす評価)	総括に用いる評価 (記録に残す評価)
①どちらがよく校庭を走ったかを考え、操作を通して「ならず」という意味を理解する		発言内容 (知)
②ジュースの量をならすことを計算で求める方法を考え、「平均」の意味を理解する	記録の回数が多くなると、ヤマ場のイメージが子供にも湧きにくくなりがちです	発言内容・活動の様子 (知)
③0を含む平均を求める		ノートの記述内容 (知)
④部分の平均から全体の平均を求める		ノートの記述内容 (思)
⑤歩幅を使った距離などの概測をする		発言内容 (知)
⑥歩幅での測定とその活用を図る		発言内容 (知)
⑦仮平均の考えを使って、平均を求める		ノートの記述内容 (思)
⑧外れ値の処理の仕方を考える		ノートの記述内容 (知)
⑨練習問題をやる。既習事項を振り返る		ノート (知)、活動の様子 (態)

- ・毎時間総括のための評価材料を集めることとなっており、教師の評価負担が重い。子供にとっても評価材料が多岐にわたっており、単元を通じて育成を目指す資質・能力について子供が意識しにくい。
- ・主体的な学習の調整が必要となる学習場面や、思考・判断・表現の場面が設定されておらず、指導と評価が結びついていない。

- 評定は、学期の区分ごとに作成する学校が多いが、**3学期制の学校でも年間2回や、年間1回の学校もある。**

【小学校等】



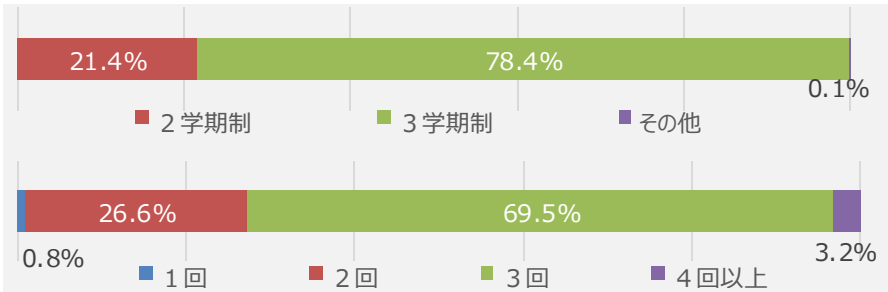
学期の区分

評定の作成回数
(※)

	1回	2回	3回	4回以上
3学期制	1.5%	16.5%	57.8%	0.1%
2学期制	0.7%	23.1%	0.3%	0.1%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

学期の区分と
評定作成回数の
関係

【中学校等】



	1回	2回	3回	4回以上
3学期制	1.4%	21.0%	44.7%	0.1%
2学期制	1.1%	31.4%	0.2%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※ 総括的評価としての観点別評価のみを作成している場合も回数に含めている。

○天童市立天童中部小学校

児童の学習の状況を把握してその改善を支援するための見取りを日常的に行っていくことを重要視し、次の学習活動につなげやすいよう、夏季休業前に評定を作成するのではなく、授業が始まっている9月の途中と、年度末の3月に評定を作成している。

○静岡市立中島小学校

今年度から、児童の学習成果を**1年間で見取る**ため、**評定を年度末1回の作成**とした。前期終了時の三者面談では、児童が自分で作成した、自分の前期の学習状況をまとめたものを使って、学習の成果を保護者に伝える取組を実施している。

静岡市立中島小学校

- ・ 児童と教員が学習過程や現時点での学習の到達度を把握し、これからの課題を共に確認し共有するため、児童自らが、日々の授業の中でICT端末を活用して学習記録を作成。
- ・ 従来から実施していた前期終了時の保護者面談の機会を活用し、児童が作成した学習記録等をもとに、児童が保護者と担任に対して自らの学習の成果を報告し、担任がフィードバックすることで、児童が学びを自己調整できるよう支援。
- ・ 評定は年度末に1回作成し、通知表として児童や保護者にフィードバックしている。

The image displays a grid of nine sample pages from the 'Study Plan' book, arranged in a 3x3 layout. Each page is a 4x4 grid. The top row of each page contains the subject name and volume number. The remaining three rows contain study plans and notes.

- Top Row (Subject and Volume):**
 - Page 1: 学習ロードマップテンプレート 国語 VOL.1
 - Page 2: 学習ロードマップテンプレート 算数 VOL.1
 - Page 3: 学習ロードマップテンプレート 社会 VOL.1
 - Page 4: 学習ロードマップテンプレート 理科 VOL.1
 - Page 5: 学習ロードマップテンプレート 道徳 VOL.1
 - Page 6: 学習ロードマップテンプレート 図工 VOL.1
 - Page 7: 学習ロードマップテンプレート 音楽 VOL.1
 - Page 8: 学習ロードマップテンプレート 体育 VOL.1
 - Page 9: 学習ロードマップテンプレート はまっちチャレンジ VOL.1
- Content Rows (Study Plans and Notes):**
 - Pages 1-3: Japanese, Math, and Social Studies. These pages show various study plans, including timelines, checklists, and notes.
 - Pages 4-6: Science, Moral Education, and Technology. These pages show study plans, including timelines, checklists, and notes.
 - Pages 7-9: Music, Physical Education, and Home Economics. These pages show study plans, including timelines, checklists, and notes.

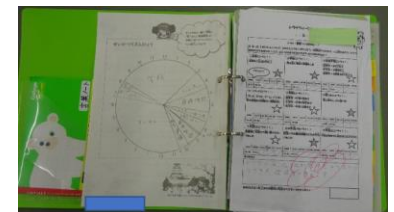
- ・ 児童が自己の学びを振り返り、次の学びに生かすとともに教師の指導改善等に生かすため、ワークシートや作品等を綴じたファイル「学びファイル」を作成。
- ・ 三者面談の際は、作成したファイルを活用しながら児童・保護者・教師が学びの様子や伸びた点、努力を要する点について共有し、次の学びに生かす取組を実施。

学びファイル

()年()組()番 名前()
ウチ ムネ オ
☆お家の人に見てもらった。サインをしてもって、持ててきましょう。
※このプリントは**学びファイル（第巻）**の１ページ目と同じでしょう。

月	サイン	お家の人から
月 日		おすしんへ書けてるねーと褒められて、こころいなかっか。

- ・ ノート、ワークシート
- ・ 観察の記録
- ・ 定着テスト
- ・ 作品 など



「思考・判断・表現」の過程で「学びに向かう力・人間性等」を積極的に評価するイメージ

時	学習活動	指導上の留意点 ★自立した学び手の姿	評価規準・評価方法等
1	○単元の見直しをもつ ○竹取物語についての文学的知識の学習	・目標や学習の流れ、ゴールの姿など見直しをもって学習できるように伝える。 ・『竹取物語』がかぐや姫として今も伝えられていることを確認し、古典に親しむための機会とする。	
2	○竹取物語の序文を音読 ○蓬莱の玉の枝を音読 ○蓬莱の玉の枝のあらすじを捉える	・古文を音読し、古典特有のリズムなどをつかむ。 ・歴史的仮名遣いや古文特有の言葉の意味などを説明し、時代とともに言葉の意味が変わっていったことを留意させる。	[知識・技能]① ワークシート ・歴史的仮名遣い、言葉の意味を学習し、それを活用できているのが確認する。
3	○富士の煙の音読 ○富士の煙のあらすじを捉える ○くらしの皇子の共感できる点を探る	・古文を音読し、古典特有のリズムなどをつかむ。 ・歴史的仮名遣いや古文特有の言葉の意味などを説明し、時代とともに言葉の意味が変わっていったことを留意させる。 ・くらしの皇子の共感できる点を全員で探ることによって自己調整する際の指標になる活動にする。	
4・5	○どの人物が気になるのが選ぶ →かぐや姫、五人の貴公子、翁 ○選んだ人物のどのような心情や行動が、共感できるのか複数の資料から探る ○互いの考えを交流する ○交流を通して、自分の考えを広げたり、深めたりして自分の解釈を再構築する ○自分なりの解釈をまとめる	・参考図書は図書スペースを設け、参考資料はタブレット上で、いつでも見られるようにしておく。 ・自分の主観にならないように必ず叙述をもとに解釈させるようにする。 ・自分の考えや友達のことを整理することで、次時の自分の考えをまとめる活動につなげる。 ★似ている考えや異なる考えの仲間を自分から見つけ、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ★自分に必要な情報を資料から収集している。	[思考・判断・表現]① ワークシート or オクリンクプラス ・場面と場面、場面と描写を結びつけながら自分なりの解釈を見つけているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度]① ワークシート or オクリンクプラス ・叙述・描写などの根拠をもとに自分なりの解釈をしているか確認する。
6	○友だちと共感できる点について語り合う ○単元のまとめを行う	・様々な考えに触れられるようにし、自分の考えをさらに広げられるようにする。 ・現代との共通点を生徒の発表から見いだせるよう示唆する。	

主体的に取り組むことができる「思・判・表」課題

評価場面は精選されており、毎時のワークシートや振り返りは評価対象とならない

主体的に取り組むことができる「思・判・表」課題

「思・判・表」課題の中で「学びの主体的な調整」等の顕著な表出があった場合にそれを加点要素として評価

時間	ねらい(■)、言語活動(丸数字)	知・技	思判表	態度	備考
1 2	■単元目標を理解する。 ■国際協力のキャンペーン広告を読んで、自分たちが貢献できることや願いについて書く。 ①国際社会の状況について知る。 ②教科書の本文を読んで理解する。 ③自分たちが貢献できることや願いについて考え、共有する。 ④自分たちが貢献できることや願いについて書く。 ■仮定法(wish)の形・意味・用法を理解する。 ①教科書本文で出てきたI wishを用いた文章を取り上げ、文の形・意味・用法を理解する。 ②前時で書いた作文に自分の願いをI wishを使って書き加える。				
3 ※	■発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして自分の考えや気持ちなどを整理し、自分が貢献できることや願いについて書く。 ①発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして、内容を理解する。 ②理解した内容や自分が貢献できることや願いなどを、同じ国を選択した生徒とペアやグループで共有する。 ③共有した内容をもとに自分が貢献できることや願いなどを書く。				
4 5	■カイトとメグの会話の内容を理解する。 ①新出語句について理解する。 ②デジタル教科書を活用し、音読練習をする。 ③教科書の本文を内容理解する。 ■仮定法(if 主語 were)の形・意味・用法を理解する。 ①教科書本文で出てきたifを用いた文章を取り上げ、文の形・意味・用法を理解する。 ②もし自分がアフガニスタンの生徒だったら、どのように勉強するのかを英語で書く。				
6 ※	■発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして自分の考えや気持ちなどを整理し、自分が貢献できることや願いについて書く。 ①発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして、内容を理解する。 ②理解した内容や自分が貢献できることや願いなどを、同じ国を選択した生徒とペアやグループで共有する。 ③第3時に書いたものや、共有した内容をもとに自分が貢献できることや願いなどを書く。				
7 8	■国際協力のキャンペーンについてのスピーチ原稿を読んで、支援がどのように役に立っているかについて理解する。 ①新出語句について理解する。 ②教科書の本文を内容理解する。				
9 ※	■発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして自分の考えや気持ちなどを整理し、自分が貢献できることや願いについて書く。 ①発展途上国の現状についての英語を聞いたり、読んだりして、内容を理解する。 ②理解した内容や自分が貢献できることや願いなどを、同じ国を選択した生徒とペアやグループで共有する。 ③第3時・6時に書いたものや、共有した内容をもとに自分が貢献できることや願いなどを書く。 ④書いたものを読み合い、交流する。			○	○
10 11	ペーパーテスト	○	○	○	

諸外国における学習評価（ブリティッシュコロンビア（BC）州）

- ・ 学習評価結果を報告するフォーマットは記載項目を絞った様式とする
- ・ 学期途中に行う評価報告は、学期早期からの実施を推奨し児童生徒・教員間での目標設定や振り返りを促す

◆ 学習進捗状況の報告例

評価の形態と目的

教室での学びの評価（Evaluation in the classroom）に基づき以下を実施

① 学習進捗状況の報告（Learning Update）

- ・ 児童生徒が学びを振り返り新しい学習目標を設定できるようにする

② 学習の総括（Summary of Learning）

- ・ カリキュラムの学習基準に対する児童生徒の達成状況を評価する

評価の頻度

- ① 1学年の中で計4回
 - ・ 2回は形式を問わず（informal Learning Updates）、学期制を取る学校の場合はゴール設定や共通理解を図るため学期早期からの実施を推奨
 - ・ 残りの2回は書面（Written Learning Updates）で、学期の中間での実施が推奨されている
- ② 年度末

評価の材料

- ①②いずれも以下に基づく
 - ・ テストやクイズへの回答
 - ・ 反復的な練習課題
 - ・ プロジェクトや作成物
 - ・ 児童生徒の作品の例や成果物
 - ・ ポスター、図、ビジュアル
 - ・ 口頭での応答や報告
 - ・ プレゼンテーションやパフォーマンス 等

Learning Update

教師の記述的フィードバック

Ryan is a great communicator and enjoys interacting with others to share his ideas. He is sensitive to others and is aware of how his actions and words impact those around him. Ryan at times requires support when uncomfortable situations with peers or staff. He is working on using his strong communication skills to express his thoughts in times of social conflict. Overall, Ryan has developed important member of our classroom community.

学習領域 習熟度		Descriptive Feedback
英語	Developing	Ryan makes meaningful connections, which demonstrates his good communication skills. Although reading below grade level, when provided with books at his level, he is growing his reading skills. The next step is to read a variety of books that interest him and practice sound!
数学	Proficient	Ryan is proficient at explaining and justifying his mathematical reasoning. He shows curiosity when solving problems. Ryan is still building his understanding of perimeter and area and can use his strong problem-solving skills to solve problems.
科学	Proficient	Ryan is a curious student who makes keen observations and predicts outcomes. When investigating body systems, he demonstrated proficiency when playing a game that requires a strong respiratory system.
社会	Proficient	Ryan has asked great questions throughout our various inquiries and has provided well-constructed arguments to defend his position. He also provided well-constructed arguments to defend his position. He is an important skill.
健康・体育	Developing	Ryan has demonstrated fair play and leadership in all of our physical activities and could recognize how personal choices surrounding physical health and well-being. Ryan continues to develop in some of his fundamental skills required to control an object such as a ball. With more practice and patience, he will become more confident and further develop his skills.
美術	Developing	Ryan was able to identify various elements of art used among Indigenous art. He was able to identify various elements of art used among Indigenous art. He was able to identify various elements of art used among Indigenous art. He was able to identify various elements of art used among Indigenous art.

コアコンピテンシーと目標設定の自己評価

My goal was to think in new ways this year. This year I had to think creatively and critically about project on anything I wanted and because I really love pretty rocks I decided to study rocks. I had to think about how to group them into categories and characteristics in my presentation. That was the hardest thing I did all year and I'm really proud of it.

I had a goal to get better at communicating my thoughts better. I think I did a lot of growth because I learned how to write a really good paragraph and all about punctuation. I didn't know how to write a really good paragraph and all about punctuation. I didn't know how to write a really good paragraph and all about punctuation. I didn't know how to write a really good paragraph and all about punctuation.

- いずれもフォーマット1枚で、主に以下の3項目からなる
- ・ 生徒の強みや成長分野、成長の機会を説明するフィードバック
 - ・ カリキュラムの学習目標に対する習熟度
 - ・ 児童生徒の自己評価

◆ 学習の総括のレポート例

Summary of Learning

British Columbia Elementary

Student Name: Jared J. Date: June 2023
Grade: 7 Attendance: 3 absences & 2 late

教師の記述的フィードバック

Jared has been a kind, friendly, and funny member of our class community. He enjoys participating in class activities and discussions and his contributions are consistently interesting and relevant.

He enjoys problem solving and is a curious learner.

He continues to develop his concentration by avoiding distractions in class. He is aware of the things that take him off task and is doing a great job of setting up his learning environment to minimize them. Time management has been an area of growth for Jared. He is doing a good job breaking large projects into small, manageable steps so he can complete his best work rather than rushing to finish at the last minute.

E-ポートフォリオ

In the e-portfolio, you will find specific descriptive feedback about what your child is able to do and where they will be going next with their learning.

学習領域	習熟度
英語	Developing
数学	Proficient
科学	Proficient
社会	Developing
健康・体育	Proficient
美術	Proficient
キャリア教育	Proficient
応用デザイン・技能・テクノロジー	Proficient

コアコンピテンシーと目標設定の自己評価

This year, students have engaged in goal-setting and self-reflection on their learning in relation to the Core Competencies of Communication, Thinking, and Personal and Social. Please see the portfolio post titled "Year-end Late French Immersion Core Competency summary."

Principal signature

Parent signature

Teacher signature

46

諸外国における学習評価（オンタリオ州）

- ・ 学期早期に児童生徒の評価を実施し、児童・保護者・教員間で学習の進捗や強みを共有する
- ・ 学期途中、学期末に行う評価いずれも児童生徒の強みや改善に向けたステップの共有に重きを置く点が特徴

◆進捗報告書例

評価の形態と目的

学びのための評価（Assessment for learning）と学びとしての評価（Assessment as learning）の考えに基づき以下を実施

①進捗報告（Progress Report）

- ・ 児童・保護者・教員間での早期かつ継続的なコミュニケーションを目的に学習の進捗、学習の強みの可視化評価を中心とする

②州公式成績表（Provincial Report Card）

- ・ 学習スキル等の発達状況、カリキュラムの学習基準に対する学生の達成状況の評価を中心とする

評価の頻度

- ① 学期早期（10月下旬～11月下旬）
- ② 各学期末（年2回）

評価の材料

※①②いずれも以下に基づく

- ・ 宿題
- ・ プレゼンテーション
- ・ パフォーマンス
- ・ デモンストレーション
- ・ プロジェクト
- ・ テスト
- ・ 試験 等

Ontario Ministry of Education Elementary Progress Report Card

Student: _____ Grade: _____ Board: _____ Address: _____

Student: _____

ES/ELD – Achievement is based on expectations modified from the c expectations for the grade to support English language learning needs

教科	Progressing With Difficulty	Progressing Well	Progressing Very Well
英語	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ NA		
フランス語	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ NA		
中国語	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ NA		
数学	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French		
科学と技術	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French		
社会	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French		
健康と体育	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French		
Physical Education	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French		
ダンス	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French ☐ NA		
ドレーマ	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French ☐ NA		
音楽	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French ☐ NA		
視覚美術	☐ ES/ELD ☐ IEP ☐ French ☐ NA		

To Parents/Guardians and Students: This copy of the progress re has been placed in the student's Ontario Student Record (OSR) fol

Teacher's Signature _____

Ontario Ministry of Education Elementary Provincial Report Card

Date: _____

Student: _____ Grade: _____ Teacher: _____ Days Absent: _____ Total Days Absent: _____

Board: _____ School: _____ Times Late: _____ Total Times Late: _____

Address: _____ Address: _____

Principal: _____ Telephone: _____

GRADE IN SEPTEMBER ➡ _____

Learning Skills and Work Habits		E – Excellent	G – Good	S – Satisfactory	N – Needs Improvement
Responsibility	- Fulfills responsibilities and commitments within the learning environment. - Completes and submits class work, homework, and assignments according to agreed-upon timelines. - Takes responsibility for and manages own behaviour.				
Organization	- Devises and follows a plan and process for completing work and tasks. - Establishes priorities and manages time to complete tasks and achieve goals. - Identifies, gathers, evaluates, and uses information, technology, and resources to complete tasks.				
Independent Work	- Independently monitors, assesses, and revises plans to complete tasks and meet goals. - Uses class time appropriately to complete tasks. - Follows instructions with minimal supervision.				
Collaboration	- Accepts various roles and an equitable share of work in a group. - Responds positively to the ideas, opinions, values, and traditions of others. - Builds healthy peer-to-peer relationships through personal and media-assisted interactions. - Works with others to resolve conflicts and build consensus to achieve group goals. - Shares information, resources, and expertise, and promotes critical thinking to solve problems and make decisions.				
Initiative	- Looks for and acts on new ideas and opportunities for learning. - Demonstrates the capacity for innovation and a willingness to take risks. - Demonstrates curiosity and interest in learning. - Approaches new tasks with a positive attitude. - Recognizes and advocates appropriately for the rights of self and others.				
Self-Regulation	- Sets own individual goals and monitors progress towards achieving them. - Seeks clarification or assistance when needed. - Assesses and reflects critically on own strengths, needs, and interests. - Identifies learning opportunities, choices, and strategies to meet personal needs and achieve goals. - Perseveres and makes an effort when responding to challenges.				

Strengths/Next Steps for Improvement _____

いずれのフォーマットも主に以下の2項目からなる

- ・学習スキルや行動習慣の状況、強み/改善に向けたステップ
- ・カリキュラムの学習状況、強み/改善に向けたステップ

- 学習評価の中に形成的評価を位置付ける
- 総括的評価では、各教科のシラバスで定めるパフォーマンス基準に対する児童生徒の評価を教科別に5段階で示す

評価の形態と目的

- ・ 児童生徒の学習ニーズを満たすため
指導や学習に係る情報提供
- ・ 指導、学びの改善や学習目標の
設定 等

- ・ シラバスやパフォーマンス基準に対する児童生徒の達成度を評価する

評価の頻度

- ① 都度実施
- ② 各学年のセメスター（計2セメスター）ごと

評価の材料

- 実践的活動への参加
 - 重要な概念を理解するためのスキルの活用状況
 - ① ● 未知の状況での学びの適用状況
 - グループディスカッションへの参加
 - チームやグループでの調査・問題解決学習における行動や思考
- ② シラバスの内容やパフォーマンス基準に対する児童生徒の成果（具体的な材料の記載は特段なし）

(出典) NSW州「[Assessment and Reporting](#)」Webサイト (2025年5月28日最終閲覧)

諸外国における学習評価（英国（イングランド））

- ・ 学習評価の中に形成的評価を位置付ける
- ・ 国の教育制度に基づき全国一律で実施される法定総括的評価では、児童生徒が達成すべき学習目標への達成度を測る

◆総括的評価時の評価シート例（英作文）

評価の形態と目的

- ①形成的評価
 - ・ 教育指導における情報を継続的に収集するため
- ②学校内総括的評価
 - ・ 教育期間の終わりにおける生徒のパフォーマンスを理解するため
- ③法定総括的評価
 - ・ 全国的な期待値と生徒の成績を比較し把握するため

評価の頻度

- ① 都度実施
- ② 単元終了時、学年末試験
- ③ キーステージ終了時

評価の材料

- ①
 - ・ 図面、レポート、写真、ビデオや図工作品等の成果
 - ・ 観察評価
 - ・ 定期的な短い復習クイズ
 - ・ 授業中の質疑応答
 - ・ 生徒の学習成果の採点
- ② 単元終了時の短期テスト、学年末試験
- ③
 - ・ 国家カリキュラムに基づくテスト
 - ・ キーステージ終了時の教師による評価*

End-of-key stage 2 statutory assessment – 期待される水準の中でより深い理解に到達							
Name: Morgan	A	B	C	D	E	F	Collection
児童は以下ができる（学習目標）	Short story	Recount	Letter	Short story	Balanced argument	Science investigation	
・ 目的と読者に応じた効果的な文章を書き、読書経験から構成や表現技法を取り入れられる							

End-of-key stage 2 statutory assessment – 期待される水準に到達							
Name: Morgan	A	B	C	D	E	F	Collection
児童は以下ができる（学習目標）	Short story	Recount	Letter	Short story	Balanced argument	Science investigation	
・ 様々な目的や読者に応じて効果的な文章を書き、読者に配慮した言葉選びができる（例：日記では一人称、説明文では直接の呼びかけ等）	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
・ 物語文では、場面・人物・雰囲気を描写できる	✓	n/a	n/a	✓	n/a	n/a	✓
・ 登場人物の性格や物語の展開を示すために会話文を取り入れられる	✓	n/a	n/a	✓	n/a	n/a	✓
・ 必要に応じて文法構造や語彙を選んで使い分けられる							

End-of-key stage 2 statutory assessment – working towards the expected standard								
Name: Dani	A	B	C	D	E	F	G	H
児童は以下ができる（学習目標）	Non-fiction	Letter	Prediction	Description	Balanced argument	Narrative	Biography	Description
・ 様々な目的に応じた文章を書くことができる	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
・ 段落を使ってアイデアを整理できる	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓
・ 物語分では、登場人物や場面を描写できる	n/a	n/a	n/a	✓	n/a	✓	n/a	✓
・ 説明文などの非物語文では、見出し、箇条書きなどの簡単な構成要素を使い、読み手の理解を助けられる	✓	✓	✓	n/a	✓	n/a	✓	n/a
・ 大文字、ピリオド、疑問符、リストのためのカンマ、省略形のアポストロフィーをおおむね正しく使える	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
・ 小学3・4年生の語彙リストの単語の多く、5・6年生の語彙リストの一部を正しく綴れる	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
・ 文字を読みやすく書くことができる	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

※：法定総括的評価に関して、keystage1（1～2学年）では実施されない。読解（Reading）と数学（Mathematic）は全国共通の外部テスト（SATs）で、英作文（Writing）と理科（Science）は教師評価で行われる。

（出典）イングランド教育省「[Key stage 2 teacher assessment guidance 2025](#)」Webサイト（2025年5月28日最終閲覧）